

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	商工観光産業支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部課名	総合推進室	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	伊平屋村の安住を支える重要な産業である観光を振興するため、協会への支援を通し、受入体制の強化、村内の誘致活動、各種イベントの開催能力の向上を図る。それにより、リピーター及び新規顧客の獲得による観光消費額の増大を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	969	13,447	10,211	12,218	10,211
		(b)予算現額	969	12,101	10,211	12,218	17,058
		(c)増減額(b-a)	0	▲ 1,346	0	0	6,847
		(d)繰越額	—				
		A. 計(b+d)	969	12,101	10,211	12,218	17,058
	B. 執行済額		969	3,777	8,996	12,218	15,027
	うち交付金充当額		775	3,021	7,196	8,812	12,021
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	31.2%	88.0%	100.0%	88.1%
予算の状況の説明		教育旅行誘致及び受入体制の強化を図るため、マリンアクティビティの設備購入、県外誘致活動コンサルティング業務の実施、活動車輛の購入で、予算6,847千円を増額した。尚、村の実績検査に於いて、商工観光に資することが不適と判断したものは、交付金を充当していないため、不用額とした。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・観光協会職員の雇用(3名)	目標	(雇用)	(3名)	(3名)	()	
		実績	1名	3名	3名		
	・視察研修(年2回)	目標	(実施)	(2回)	(2回)	()	
		実績	年12回	3回	1回		
	・人材育成講座開催(3回)	目標	(実施)	(3回)	(3回)	()	
		実績	年3回	5回	6回		
	・集客誘致活動(年2回)	目標	()	(2回)	(2回)	()	
		実績		2回	3回		
	・旅館業取得民家との業務調整	目標	()	(12回)	(業務調整の実施)	()	
		実績		15回	業務調整の実施		
	・マリンアクティビティ備品の整備	目標	()	()	(整備完了)	()	
		実績			整備完了		
	・教育旅行誘致業務委託	目標	()	()	(業務委託の完了)	()	
実績				業務委託の完了			
・活動車輛整備	目標	()	()	(整備完了)	()		
	実績			整備完了			
達成状況説明	・伊平屋島観光協会職員については、目標の3名雇用に対し、3名を雇用した。 ・視察研修は目標の2回実施に対し、今帰仁村で実施した1回のみで、海上気象の影響により1回未実施となった。 ・人材育成講座は目標3回開催に対し、食品衛生アレルギー講座・水上安全法講習会・水難救助講習会・伊江村・伊是名村の協会役員を招いた村内ツアーと意見交換会を実施し、受入人材のスキルアップを実施した。 ・集客誘致活動は目標2回に対し、大阪(2回)・名古屋(1回)の計3回実施した。 ・旅館業取得民家との業務調整は年12回開催予定に対し、役員会、正副会長会、会員会議延べ16回実施した。 ・マリンアクティビティ備品の整備は、ライフジャケット・体験セット(水中メガネ、シュノーケル、フィン)・マリンジェットの整備を行った。 ・教育旅行誘致業務委託については、本土の専門業者と委託締結を行い、本土での継続的な誘致活動を行った。 ・活動車輛の整備は、来島客の送迎を含む活動車輛として10名乗りの車輛整備を行った。						

成果目標 (指標) 及び進捗状況		H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
		旅館業取得民家の増加 21戸 平成29年3月 29戸	目 標	()	(11戸)	(21戸)	()	()
			実 績		10戸増(全29戸)	6戸増(全35戸)		
		人材バンク登録者数増加 3人 平成29年3月 7人	目 標	()	(3名)	(3名)	()	()
			実 績		3名	3名		
		マリンアクティビティ備品の整備完了	目 標	(-)	()	(整備完了)	()	()
			実 績			整備完了		
		教育旅行誘致 1校	目 標	(-)	()	(1校)	()	()
			実 績			3校		
		活動車輛整備完了	目 標	(-)	()	(整備完了)	()	()
実 績				整備完了				
進 捗 状 況 説 明		・旅館業取得民家が当初目標に掲げていた50民家(平成28年度目標)に対し、村内で積極的に誘致活動を展開したものの、保健所への申請手続きに時間を要したこと、当初見込んだ対象者が離村、申請回避を行い、35民家となった。 ・人材バンク登録者数は平成28年度新たに観光地歴史文化ガイド、島尻集落歴史案内ガイド、陶芸家が登録し、体験プログラム実施者が増えたことにより、村内実施プログラムの充実が図られた。 ・教育旅行誘致では、本土での継続的な誘致活動が実り、県外高校3件の修学旅行誘致に成功した。 ・マリンアクティビティ備品の整備・活動車輛整備は滞りなく実施された。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村の入域観光客数は平成13年の21,000人を境に減少傾向にある。他方、県内の入域観光客数は増加の一途を辿っており、観光客による購買、宿泊による恩恵を受けていない状況が見られる。そこで来島する観光客を誘引させるため、観光に特化した団体「伊平屋島観光協会」の活動支援を行い、民泊体験や修学旅行を誘致し、入域観光客数の増加を図る必要がある。 また、上記組織の安定的・持続的運営、同協会会員の資質の向上と会員数の増加も、観光客数の増加とリピーター確保に必要な条件である。	今後は、未達成である旅館業取得民家の増加が必須である。村内の資源を活用した体験プログラムの増加、会員の資質向上並びに会員数増、本土での積極的な誘致活動による本土修学旅行件数の増加を実施することにより村内の入域観光客数を増やし、村内経済を牽引する産業へ昇華する必要がある。
今後の取り組み方針		
次年度は整備を行ったマリンアクティビティープログラムを受入アイテムの中心として据え、既存のプログラムと連動して伊平屋村独自の取組を展開し、本土での継続的な誘致活動の取組を実施することで、29年度以降の入域観光客数増加に寄与すると同時に、旅館業取得民家の増加、コミュニティーが狭量である本村に於いて親戚間で不幸のあった場合、喪中期間が長く、その間、旅館業取得を手控えることが散見される為、協会のみならず、行政、商工会も適宜勧誘のためのスポークスマンとなり、取得民家の増加に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22,745</td><td>15,027</td><td>12,021</td><td>3,006</td><td>7,718</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	22,745	15,027	12,021	3,006	7,718
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
22,745	15,027	12,021	3,006	7,718										
伊平屋村 15,027千円 → 補助金 15,027千円 → 伊平屋島観光協会 15,027千円 (内対象外経費:7,718千円) 職員人件費:6,906千円 集客誘致活動費:2,779千円 備品費:3,987千円 観光人材育成事業費:306千円 観光協議会及び関連会議運営経費:1,049千円														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は「伊平屋島観光協会」で、観光に資する団体であるため、事業内容と一致し適正である。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は観光以外に支出していないが、検査時に説明不足については不用額としたため改善が必要。											
	△	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担は総事業費の10%以上あるが、今後の活動量についても増加予定のため、今後の負担については検討が必要。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的の達成の観点から必要性等について書類の検査を行い、適正と判断した。											

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	観光地イメージアップ推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	魅力的な観光地づくりの推進を目的とし、海浜、道路、公園など観光客が利用する公共施設等の美化、清掃や花木の植栽などを実施する。						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	15,650	13,084	18,632	18,639	21,885
		(b) 予算現額	15,612	13,084	13,379	18,602	21,885
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 38	0	▲ 5,253	▲ 37	0
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	15,612	13,084	13,379	18,602	21,885
	B. 執行済額		15,612	13,084	13,273	18,602	20,774
	うち交付金充当額		12,489	10,467	10,618	14,881	16,619
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	99.2%	100.0%	94.9%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容は実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。不用額に関しては、備品購入の見積入れを行った際の入札残である。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	観光美化作業員16名	目 標	(16名)	(16名)	(16名)	(16名)	
		実 績	16名	16名	22名	23名	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	作業員を16名から23名に増やしたことにより、2班に分けることによって2カ所での美化活動を行え、イベント前やシーズン前等の複数個所の美化活動が効率よく行えた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	観光アクセス道路の美化清掃: 51.6km 観光関連施設の美化作業 18カ所	目 標	()	(29.5Km)	(29.5Km 5カ所)	(51.6Km 18カ所)	()
		実 績		29.5Km	29.5Km 5カ所	51.6Km 18カ所	
	【参考指標】		目 標	()	()	()	()
			実 績				
	進捗状況説明	県道田名野甫線、村道アグチャー線、村道クマヤー線、村道アツチャビン線、村道アサ線、村道田名西線、村道島尻西線、村道野甫線、村道屋蔵線、我喜屋ダム線、村道灯台線の11カ所 観光地に関して前泊後背地、念頭平松、米崎海浜公園、野甫展望台、伊平屋灯台、上の川公園、林道の7カ所 計18カ所の美化作業を行った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	昨年度の検証を踏まえ、住民等の意見を聞きイベントの時期やシーズンの時期に合わせて効率よく作業を行うことが必要である。。また人数を増やすことによって1日で2カ所の美化活動を行い効率よく作業が必要。また、1年を通して毎日草刈り機を使うため、現状として故障等が増えたり、消耗品などの使用頻度も上がっている。	草刈り機の負担を軽減のため、作業終了前にメンテナンスを行う頻度を多くする必要がある。また、ワンランク上の壊れにくい草刈り機を使用し毎日使う頻度に耐えようメンテナンスを強化する必要がある。 刃の消耗を抑えるため、美化作業場所によりカマやチェーンソー等を使い分けを行いながら、使用する必要がある。
今後の取り組み方針		
上記の検証を踏まえて、草刈り等のメンテナンスの強化や草刈り機の消耗を防ぐため、器具の使い分けを行いながら、効率よく作業を行うため、チーム編成等を行い作業を進める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>20,800</td><td>20,774</td><td>16,619</td><td>4,155</td><td>26</td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	20,800	20,774	16,619	4,155	26
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
20,800	20,774	16,619	4,155	26										
伊平屋村 20,774千円 賃金 15,999千円 需用費 1,943千円 使用料及び賃借料 99千円 備品購入費 2,733千円 清掃作業員賃金 15,999千円 消耗・燃料・修繕費 1,943千円 機械借上料 99千円 備品購入費 2,733千円 村負担分 (交付対象外経費) 26千円 清掃作業員にかかる賃金 清掃作業の際に使う 燃料・消耗品購入・修繕費用 清掃作業の際油圧ショベル 及び2tダンプ等の使用料 作業に使う道具等の 購入費用														
資金 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、事業に必要な経費を支出しているため妥当である。備品についても見積もり比較を行ったため妥当である。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	△備品購入については、見積比較を行い選定しており、入札残の不用額を出したため、改善を要する。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。												

市町村名		伊平屋村					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	誘客イベント推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	総合推進室	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	村のメインイベントである「いへやまつり」「伊平屋ムーンライトマラソン」や村の自然資源等を活用した、イベント並びに、島外において「伊平屋村」をPRするイベントを開催することにより、伊平屋村の認知度を高め、入域観光客数の増加を図る。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☒ 補助 ☒ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a) 当初予算額	27,610	21,240	23,108	29,694	31,702
		(b) 予算現額	17,194	23,192	15,330	31,973	31,717
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 10,416	1,952	▲ 7,778	2,279	15
		(d) 繰越額	—				
	B. 執行済額	A. 計 (b+d)	17,194	23,192	15,330	31,973	31,717
		うち交付金充当額	12,706	18,553	12,264	25,578	25,373
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	92.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明		村内外で実施するイベント運営の委託料、補助金、負担金とりわけ村の一大イベントである「第22回伊平屋ムーンライトマラソン」は20回大会が台風の影響により中止となった為、参加人数の減少に歯止めがきかず、参加料の減少が運営に影響を与えた。しかしながら、定員が減少してもステージイベント等は減少しないため、満額執行した。				
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	イベント開催委託 10件	目標	(—)	(—)	(10件)	(10件)	
		実績	—	—	10件	9件	
	イベント開催支援 3件	目標	(—)	(—)	(3件)	(3件)	
		実績	—	—	3件	4件	
	観光コーディネーター 1名	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	
		実績	1名	1名	1名	1名	
	達成状況説明	・イベント開催委託活動目標は10件で掲げていたが9件と実績を達成していないものの、イベント開催支援の活動目標3件から4件となり、イベント関連総数は変動なく、通年を通じて実施した。 ・観光コーディネーターを1名配置し、通年通じて雇用した。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(25年度)	26年度	27年度	28年度
「対象イベント等誘客数 平成27年度7,589名」 ※平成26年度7,514名入域観光客数 2.4.5.7.10月入域観光客数より算出		目標	(4,500)	(6,612)	(7,589)	(7,589)	()
		実績		7,612	8,026	8,687	
キャンプツアーを含む誘客受入体制の構築		目標	()	()	()	(キャンプツアーを含む誘客受入体制構築)	()
		実績				誘客受入体制構築の実施	
進捗状況説明		・入域観光客数対前年比1%上昇を掲げた結果、実績値は目標値を上回った。今後平成33年度までに「伊平屋島観光振興総合計画」で掲げる目標「平成33年までに21,000人」(暦年ベース)入域観光客数を達成することを目指す事と併用して、村内の受託業者・関係者が委託内容を十分に理解し、より効果的な集客・受入体制の構築を目指す。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・冬期の入域観光客数のでこ入れを強力に推進するため、冬場のイベントを多く企画・実施している効果が徐々に現れ、対前年(下半期)を比較すると約1,000名の増となっている。今後も積極的に冬期の入域観光客数の誘客を促進し、年間を通じて安定した観光産業の振興を図る必要がある。	・今後も、冬場の閑散期イベントの安定運営を図り、入域観光客数の増加を図る。
今後の取り組み方針		
・ムーンライトマラソンの参加者数の減少の対応策として申込期間の前倒しと、申込期間の延長。又、祭りの告知を含む早めの情報発信で、誘客前の準備にも今後力を入れ、更なる入域観光客数の増加を図る。又、その他委託イベントに関しても、受託者が自主的に事業構築・改善を行いながら、積極的に村内団体・業者を巻き込むことで、運営が出来るよう動機づける。最終的には受託業者自らPDCAサイクルを循環させることが可能な組織運営を指導していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		52,655	31,717	20,938
		交付金充当額	市町村負担金	
		25,373	6,344	
伊平屋村 31,717千円 賃金 2,508千円 コーディネーター(1名) 2,508千円 委託料 12,156千円 特定非営利活動法人 げんき村 733千円 伊平屋村商工会青年部 960千円 伊平屋村漁業協同組合 432千円 笹尾商工株式会社 4,612千円 一般社団法人 TAO Factory 田名区 459千円 沖縄県羽地振興協同組合 470千円 負担金・補助金及び交付金 17,053千円 伊平屋かかしまつり実行委員会 311千円(交付対象外経費581千円) いへやまつり実行委員会 2,684千円(交付対象外経費2,439千円) 伊平屋ムーンライトマラソン実行委員会 12,993千円(交付対象外経費15,371千円) 三村交流事業実行委員会 1,065千円(交付対象外経費2,547千円) 誘客イベント(人看板設置) 誘客イベント(ウェルカムイベント・スポーツ大会)2件 誘客イベント(釣り大会) 誘客イベント(キャンプツアー・スポーツイベント)2件 誘客イベント(村内外情報発信) 誘客イベント(イルミネーション) 誘客イベント(村内外情報発信) 第5回 伊平屋かかし祭り 892千円 第28回 いへやまつり 5,123千円 第22回 伊平屋ムーンライトマラソン 28,364千円 第4回 いいな運天港いちやり場まつり 3,612千円				
資金の流 れ、使 途の 点検 ・費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業は補助事業終了後も引き続き持続運営予定であるため、妥当である。補助金については、村の発展に寄与する団体で構成される組織を選定したため妥当である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業完了後検査を実施、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考える。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は交付要綱に基づき精査、妥当と判断する。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については精算段階で検査を実施、目的に即し必要のものであったと判断したため、限定していると判断した。	

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	海浜公園植栽及び緑化体制整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	建設課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	村のキャンプ場として位置づけられる米崎海浜公園の利便性、快適性の向上や良好な景観形成に向け、公園内の植栽をおこなうと共に島内の緑化推進に向け、中核となる人材の育成を図り、村民参画による島内緑化推進体制の整備を行う。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	16,500	11,500	－	11,758	
		(b)予算現額	8,620	11,460	0	11,758	
		(c)増減額(b-a)	▲7,880	▲40	▲6,692	0	
		(d)繰越額	－		6,692		
		A.計(b+d)	8,620	11,460	6,692	11,758	
	B.執行済額		8,532	4,768	6,692	11,700	
	うち交付金充当額		6,825	3,814	5,353	9,360	
	次年度繰越額			6,692	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.0%	41.6%	100.0%	99.5%	
予算の状況の説明		委託及び工事の入札残による執行残額が発生したが、施工内容においては確保できた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	フクギ等植栽 1,700本程度	目標	(1,697本)	(1,700本)	(1,700本)	()	
		実績	1,697本	1,331本	1,441本		
	視察研修、植栽実施研修の実施	目標	(ー)	(視察研修植栽研修の実施)	(視察研修植栽研修の実施)	()	
		実績	ー	島外視察研修植栽実施研修の実施	島内生産者の園場視察植栽実施研修を実施		
達成状況説明	計画に沿った緑陰機能の回復とあわせ海浜景観の復元ができ、海浜公園の緑陰機能回復に寄与した。植栽帯をならし植栽面積の確保を計画していたが、現況の丘陵を利用した景観及び防風計画に変更したことにより植栽面積が小さくなり目標本数を下回ることとなった。また、住民を対象とし村花のツツジの植栽を実施、米崎海浜公園内に植樹を行うなど住民の参画による緑化活動を実施した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値 (24年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (29年度)
	植栽木の成長により、緑陰機能の回復が図られ、利便性、快適性の向上	目標	(1,610㎡)	(355㎡)	(355㎡)	(利便性の向上)	(1,610㎡)
		実績		355㎡	355㎡	利便性の向上	
	村民参画による緑化推進体制の整備	目標	()	(ー)	(村民参画による緑化推進体制整備)	(村民参画による緑化推進体制整備)	(村民参画による緑化推進体制整備)
		実績		ー	視察研修植栽研修の実施	島内生産者の園場視察植栽実施研修を実施	
	進捗状況説明	園内に1,610㎡の植栽帯を計画し、これまでに1,447㎡の植栽を完了しており、木々の成長とともに公園内の緑陰機能、防風効果が発揮され、園内の快適性、利用者の利便性の向上に大きく寄与できる。植栽帯の設置を行い海浜景観の修景対策をする事ができ、緑陰機能に優れた沖縄らしい風景を創造でき快適な観光地作りができた。島内の生産者園場の視察を行い、挿し木による植栽方法の実習を行い、住民参加によるツツジ植栽の中心となり植栽を実施した。また、海浜公園内の花壇に植栽の実施研修を行った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	キャンプ場として位置づけされている米崎海浜公園の緑化及び緑陰機能の回復を図り、強化を実施している。 西側一部を残し周囲の植栽は完了し、成長後には防風や緑陰機能の強化に大きく寄与するが、周囲の除草や追肥など成長の管理及び利用にかかる利便性、安全性の管理を十分に行う必要がある。 本業務で研修を行った者を中心とし、村民の参加による、村花のツツジの植栽を行うことができた。	島内外の連携による樹木の生産を行い、在来種で安易に確保でき、管理のしやすい苗木の確保を考慮しなければならない。 住民参加の研修により、コーディネートや苗作りの研修を行い、意欲の高揚に寄与できたと考えられるが、取りかかり方(島内での資材等の調達方法)や、間引きや移植等の実践に近い研修を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
これまでに公園周囲の植栽はほぼ完了し、西側の一部を残すのみとなっており、継続し植栽を行い完了を目指す。 植栽した樹木の成長により緑陰機能を確保し、暴風対策に寄与できるが、成長を補助するため密植した植栽を行っており間引きや移植等を行う必要があることから、実践的な研修を兼ねた間引き、移植の実施研修を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11,700</td><td>11,700</td><td>9,360</td><td>2,340</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,700	11,700	9,360	2,340	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,700	11,700	9,360	2,340	0										
伊平屋村 11,700千円 → 委託料 3,569千円 → (有)MUI 2,073千円 → (有)MUI 1,496千円 → 工事請負費 8,131千円 → (有)伊平屋興業 8,131千円 海浜公園植栽工事(植栽)にかかる現場技術委託業務に係る経費 緑化活動支援に係る講習、実習に係る経費 海浜公園植栽整備(植栽)にかかる整備工事に係る経費														
資金の流 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
資金の流 使途の 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託、請負ともに指名競争入札により発注を行った。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、見積により最低価格を設計額とし入札を行った。工事では委託業務による工事単価の見直しを行い、積算物価資料等を活用し積算したことから適正であったと考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について完成時の支出等に関する書類の検査確認をし、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑤ 公園修景等整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ			
担当部署名	建設課	事業実施（予定）年度	平成28～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備			
事業内容	国指定を受けた念頭平松を中心とした、景観に配慮した、衛生施設（トイレ）、休憩施設の整備を行い、快適性、利便性の向上とともに観光地としてのイメージアップ、伊平屋らしい原風景の創出を図る。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	6,000					
		(b)予算現額	5,999					
		(c)増減額（b-a）	▲1					
		(d)繰越額	-					
		A. 計（b+d）	5,999					
	B. 執行済額		5,999					
	うち交付金充当額		4,799					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）（B/A）		100.0％					
予算の状況の説明		委託の入札残による執行残額が発生したが、変更で追加契約を行い執行した。						
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況					
	調査設計業務の実施			25年度	26年度	27年度	28年度	
		目標	（ - ）	（ - ）	（ - ）	（ 実施設計の実施 ）		
		実績	-	-	-	実施設計完了		
	目標	（ - ）	（ - ）	（ - ）	（ - ）			
実績	-	-	-	-				
達成状況説明	実施設計業務委託については設計業務・地質調査を完了した。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）	
	調査設計業務の完了	目標		（ 実施設計の完了 ）	（ ）	（ ）		
		実績		実施設計の完了				
		目標						
		実績						
	進捗状況説明	実施設計業務委託の設計業務・地質調査が完了した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成28年3月1日に「伊平屋島の念頭平松」として国指定天然記念物に指定され、村民にとって古くから憩いの場として親しまれており、村民だけではなく伊平屋島の観光地として来島者が訪れている場所である。国指定天然記念物になり今後さらに多くの観光客の利用が予想されるため伊平屋らしい原風景に調和した観光地イメージをを向上するために、景観や快適性、利便性に配慮した園路広場、休憩、修景、便益施設（男女別、身障者用を備えた最小規模のトイレ）などについて改修整備を実施することについて住民アンケート及び検討委員会で既存施設の利活用についても検討していく。	平成28年7月～平成29年3月までに田名区意見交換会、検討会議、関連部署との調整等を重ね総合的な公園整備計画の協議・確認を5回程度行ったことにより課題の克服に努めることができた。今後も継続しながら関係者との連携を図っていく。
今後の取り組み方針		
トイレ等衛生施設・休憩施設（東屋）の整備を行いながら、既存施設の改修設計や利活用を協議し検討していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>5,999</td><td>5,999</td><td>4,799</td><td>1,200</td><td>0</td></tr> </table> 伊平屋村 5,999千円 委託料 5,999千円 (株)MUI景画 5,999千円 設計業務・地質業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,999	5,999	4,799	1,200	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,999	5,999	4,799	1,200	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模においては、見積による設計数量の最低値及び最低額を採用し委託技術者単価及び沖縄県土木設計業務積算基準に基づき積算したことから適正であったと考える。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について完成時の支出等に関する書類の検査確認をし、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	病害虫防除事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-ウ		
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成24～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産物の安全・安心の確立		
事業内容	作物の生産性の向上と農家所得の向上を目指し、さとうきびの収穫量低下の原因となっている病害虫の被害を防ぐため防除駆除を実施する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,000	10,750	8,160	7,860	7,694
		(b)予算現額	1,600	10,164	8,100	7,860	7,693
		(c)増減額(b-a)	▲3,400	▲586	▲60	0	▲1
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	1,600	10,164	8,100	7,860	7,693
	B.執行済額		1,600	10,164	8,100	7,860	7,693
	うち交付金充当額		1,280	8,131	6,480	6,288	6,154
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容を全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて、適正であったと考える。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	防虫剤（フェロモン剤）散布：160ha	目標	（150ha）	（150ha）	（160ha）	（160ha）	
		実績	150ha	150ha	160ha	160ha	
		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実績					
達成状況説明	村内のさとうきび生産対象面積である、160haのフェロモンチューブ設置面積（目標）に対し、同面積（実績）の実施を行なった。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（23年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	病害虫防除等によるさとうきび生産量の安定化 H23年度 1,758t→H28年度 4,900t	目標	（1,758t）	（2,700t）	（4,000t）	（4,900t）	（ ）
		実績		3,441t	4,361t	6,003t	
		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実績					
	進捗状況説明	フェロモンチューブの設置により、さとうきびの生育被害を減少することができたため、生産数量の目標値を上回ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・フェロモンチューブは、直接病害虫を誘殺するものではなく、雌の性フェロモンと同様のにおいが封入されている薬剤を設置することで雄を誘引し、雌の居所を妨害する。そのため交尾を阻害する防除のため個体数の増加を防ぐことができるが、誘殺等の減少結果とはならない。また、さとうきびだけでなく、イネ科雑草・ほ場周辺縁部等の雑草にも「イネヨトウ」は寄生するため、発生予防である周辺雑草の管理も重要である。 ・台風時期は風害等、フェロモンチューブ設置判断の難しい時期は避け、効果的な設置時期を推進し、生産組合・生産農家の協力のもと共同防除を行なうことが不可欠である。 ・生産増加に向けて、継続的なフェロモンチューブの設置が必要であるため、「イネヨトウ」の発生を防除し、安定的な生産振興を図る。	・持続的な実施と効果的な防除を行なうため生産組合・生産農家の理解のもと設置における指導及び啓発は必要のため、協同防除を主に実施を図る。 ・さとうきび生産安定化を図るため、面積における効率的なフェロモンチューブ設置の指導を行なう。 ・沖縄県病害虫防除技術センター等の病害虫予察情報等を活用し、早期防除の推進を図る。
今後の取り組み方針		
今後も、フェロモンチューブ設置による「イネヨトウ」による防除を実施し、さとうきびの安定的生産を推進する。また、さとうきび生産者による防除のみならず、水稻及び畜産農家とも連携し、雑草等の管理が重要であることを指導・啓発し、引き続き病害虫の生息しづらい環境の構築を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,693</td><td>7,693</td><td>6,154</td><td>1,539</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,693	7,693	6,154	1,539	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,693	7,693	6,154	1,539	0										
伊平屋村 7, 693千円 委託費 7, 693千円 伊平屋村さとうきび 生産振興対策協議会 7, 693千円 伊平屋村イネヨトウ交信かく乱委託														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、村及びJA、生産農家等で構成されている伊平屋村さとうきび生産振興対策協議会を選定した。 ○予算規模については、事業内容に見合うものとする。 ○受益者負担については、防除剤設置作業を生産農家等の協力により実施しているため、負担を無しとしている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	伊平屋村優良繁殖牛導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成26～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備	
	Ⅲ-1-(6)						
事業内容	本村の畜産業の振興を図る為、計画的に優良繁殖雌牛を導入し、肉用牛繁殖農家へ導入費用の一部を助成することで肉用牛の増頭と飼育農家の経営安定化を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,500	6,000	5,600		
		(b) 予算現額	5,250	6,000	5,590		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,250	0	▲ 10		
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	5,250	6,000	5,590		
	B. 執行済額		5,250	5,800	5,590		
	うち交付金充当額		4,200	4,640	4,472		
	次年度繰越額						
	執行率（％）(B/A)		100.0%	96.7%	100%		
予算の状況の説明		当初の事業計画通り執行を行ったため、100%となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	優良繁殖雌牛導入頭数14頭	目標	(15頭)	(15頭)	(14頭)	()	
		実績	15頭	15頭	14頭		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
	達成状況説明	当初の計画通り年間14頭の導入をすることができた。					
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（29年度）
	優良繁殖雌牛の飼育頭数の増 H27年度190頭→204	目標	()	(184頭)	(194頭)	(204頭)	()
		実績		184頭	196頭	205頭	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	優良繁殖雌牛導入の飼育頭数は更新時期に到来している雌牛が繁殖能力があるため、205頭となり、成果目標を達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	繁殖雌牛の導入により母牛の更新が進み成果がでてきているが、セリ市場の価格が高騰しているため、農家の負担が大きくなっている。今後、母牛に受胎率を向上と優良繁殖雌牛の増頭・更新を図り農家の技術向上を図り繁殖牛の増頭を図る。	優良繁殖牛の価格高騰による農家負担の軽減と早期増頭を図るため、導入牛の月齢制限を生後6ヶ月以上～18ヶ月齢未満の未経産牛としていたが、6ヶ月以上～24ヶ月齢未満の雌牛と規則を改正した。月齢の幅を広げる事によりセリ競争の軽減を図り、未経産から雌牛としたことで、経産牛・妊娠牛の導入ができるようになったが、農家の認知度が低かったため、経産牛・妊娠牛の導入がなかった。
今後の取り組み方針		
本計画の導入を確実に実施するとともに、実施規則の改正点の周知を強化し、セリ競争の軽減と受胎対策を図る。 また、優良導入牛の子牛の保留をし、基盤となる母牛の増頭を図り、村の牛の基盤の確立に努めていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12,507</td><td>5,590</td><td>4,472</td><td>1,118</td><td>6,917</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,507	5,590	4,472	1,118	6,917
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,507	5,590	4,472	1,118	6,917										
伊平屋村 5, 590千円 → 補助金 5, 590千円 → 畜産農家 5, 590千円 （ 畜産農家 14件 ） （ 交付対象外経費： 6, 917千円 上限400千円/頭 ）														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、母牛更新対象農家農家で有り妥当である。 ○予算規模は導入牛のセリ価格から積算しており適正である。 ○受益者への補助は1／2以下且つ40万円以下であるが、セリ市場価格が高騰しているため、受益者負担増となっている。 ○費用の使途は、導入牛の購入価格に対して助成されるものであり、伊平屋村の農業振興に資するものである。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	×	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	伊平屋村農業用資材（堆肥）供給施設機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ		
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成28～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産物の安全・安心の確立		
事業内容	農作物の反収増加を図り農家所得の向上と経営の安定化に資するため、堆肥の安定生産と生産量の増加を図る必要があることから、老朽化した堆肥センターの機能強化のための、実施測量設計を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	70,000				
		(b) 予算現額	10,803				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 59,197				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	10,803				
	B. 執行済額		10,803				
	うち交付金充当額		8,642				
	次年度繰越額		0				
	執行率（％）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初、設計業務委託及び機能強化工事、備品購入を計画していたが、設計内容調整等に時間を要したため、工事と備品購入が出来ず、事業費の減額となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度
	実施測量設計業務の発注	目 標	（ 実施測量設計業務の発注 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績	実施測量設計業務の発注				
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
達成状況説明	活動目標については、実施測量設計業務を完了した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（27年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（30年度）
	実施測量設計業務の完了	目 標	（ ）	（ 実施測量設計業務の完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		実施測量設計業務の完了			
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
	進捗状況説明	成果目標については、実施測量設計業務を完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・安定的な生産及び供給を図るため、農作物生産動向及び生産者の需要を鑑み、計画的な農業用資材(堆肥)の生産に努めなければならない。 ・原料である牛糞の回収において、畜産農家との連携を密にし、安定的な原料搬入に努めなければならない。 ・施設整備については、生産者から早期の運用開始及び堆肥供給の要望が挙げられているため、計画的な工程管理に努めなければならない。	・継続的な施設運営を図るため、経営コストの低減及び比較検討を図る必要がある。 ・村畜産生産組合と協議を行い、原料回収方法等の協定を締結する必要がある。 ・施工業者等との定期的な工程会議を実施し、早期運用及び堆肥供給に向け、工程管理を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・施設ランニングコスト及び堆肥販売収入等の比較検討し、安定的な施設運営に取り組む。 ・畜産生産組合と協議の場を設け、原料回収の方法検討を行わなければならない。 ・今回の実施測量設計業務において作成された設計を基に、平成29年度中に施設整備と備品購入を図り、各関係機関と調整し、安定的な農業用資材(堆肥)供給に取り組み、それによる農作物生産向上を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>10,803</td><td>10,803</td><td>8,642</td><td>2,161</td><td>0</td></tr> </table> 伊平屋村 10, 803千円 委託費 10, 803千円 株式会社 シビルエンジニアリング 10, 803千円 平成28年度伊平屋村農業用資材(堆肥)供給施設機能強化測量・設計業務委託					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,803	10,803	8,642	2,161	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,803	10,803	8,642	2,161	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、指名競争入札により決定しているため、妥当である。 ○予算規模については、実施測量設計業務における設計内容調整に時間を要したため、工事費及び備品購入費を減額した。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	×	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	伝統文化継承支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成	
事業内容	島への誇りと愛着を醸成し、次世代を担う健全な人材を育成するため、伝統文化、伝統芸能について、老人会等との連携による課外講座の実施や保存会等の活動を支援する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,090	7,687	5,090	4,190	6,022
		(b) 予算現額	1,340	16,360	4,414	4,870	4,685
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 750	8,673	▲ 676	680	▲ 1,337
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	1,340	16,360	4,414	4,870	4,685
	B. 執行済額		1,340	15,859	4,414	4,870	4,684
	うち交付金充当額		1,072	12,687	3,531	3,896	3,747
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率（％）(B/A)		100.0%	96.9%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初の執行計画を見直したことから、報酬204千円、需用費564千円、補助金416千円のほか1,337千円を減額した。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	伝統文化学習講座の開催：14教室／11回	目標	（ 11講座（11回） ）	（ 11講座（11回） ）	（ 11講座（11回） ）	（ 14講座（11回） ）	
		実績	15講座（11回）	13講座（11回）	16講座（11回）	17講座（11回）	
	島内伝統芸能保存団体支援：8団体	目標	（ ）	（ ）	（ 8団体 ）	（ 8団体 ）	
		実績			4団体	6団体	
達成状況説明	伝統文化学習講座について、児童生徒の希望により予定より多くの講座の開設と年間計画に基づき計画通り講座の運営を行った。 団体支援に関しては、村民俗芸能保存会及び5集落（保存会支部）、地元三線協会、琉球箏の8団体を予定していたが、地謡（三線）継承者の育成について三線及び箏の保存団体の指導を受けたことから、これらの2団体を5集落の支援に含めたことから、2団体の減となった。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	伝統文化教室の参加者数：100名	目標	（ ）	（ 100名 ）	（ 100名 ）	（ 100名 ）	（ ）
		実績		150名	167名	154名	
	地謡（三線）継承者の育成 5名	目標	（ ）	（ ）	（ 5名 ）	（ 5名 ）	（ ）
		実績			5名	5名	
	進捗状況説明	継続的な伝統文化活動の日の実施により、昨年度より開設講座の開設数が目標を上回ったほか、参加人数も100名の参加者目標に対し154名が参加し目標人数を上回った。また、各集落の主體的な取り組みを実践するため、前泊区においては伝統文化教師の実施を直接実施から、運営委託へと変更したことで、地域住民の参画が拡大した。 さらに、計画的に伝統文化保存活動が実施出来たほか、成果発表として島内イベントへの出演や、地域行事をととした地謡（三線）継承者の育成を行い、地域住民の伝統文化に対する機運の醸成と合わせ、地謡（三線）継承者の発掘に寄与できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	○多様化する講座の種類や、ニーズの高い講座への講師の割り当てや人材確保が必要となっている。 ○事業効果の客観指標として、発表会やコンテストの開催等、技術向上や機運の醸成に向けた取り組みを継続的に行う必要がある。	○各講座の実施計画について講師陣と密な連携を図る必要がある。 ○さらなる人材確保に向けて実施内容や取り組みの情報発信を強化する。 ○今後は行政主導から各集落の主体的な取り組みへと移行できるよう、地域リーダーの育成にも力を入れていく。 ○相対的な取り組みとなるよう、ゴールイメージの共有化と地域住民を含めたキャンペーンや、イベントの企画運営を行う。
今後の取り組み方針		
○今後も引き続き事業を推進し、民俗芸能保存会を中心に、伝統文化の継承、発展させるため、島内イベントでの出演機会を確保し、さらなる伝統文化の掘り起しと実践研究を図って行く。 ○また、伝統文化の継承発展に向けた取り組みについて、地域住民がより主体的及び意欲的に関わられるよう、実施方策の在り方についても検証を行って行くほか、地域リーダーの育成も同時に進めて行く。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,752</td><td>4,684</td><td>3,747</td><td>937</td><td>68</td></tr> </tbody> </table> 伊平屋村 4,684千円 報償費 885千円 伝統文化教室講師 885千円 (伝統文化教室にかかる講師報償費(講師14名)) 委託料 519千円 前泊区 519千円 (前泊区伝統文化教室運営委託料) 使用料及び賃借料 264千円 公民館使用料 264千円 (伝統文化教室の開催に係る会場使用料) 補助金 3,016千円 芸能保存会・5集落支部 3,016千円 (対象外経費:68千円) 伝統芸能保全活動に係る運営補助金 ①芸能保存会:1,233千円(活動補助金) ②田名支部:242千円(活動補助金) ③前泊支部:534千円(活動補助金) ④我喜屋支部656千円(活動補助金) ⑤島尻支部199千円(活動補助金) ⑥野甫支部152千円(活動補助金)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,752	4,684	3,747	937	68
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,752	4,684	3,747	937	68										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、推進基盤となる芸能保存会とその各支部に限定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は適正な規模となっている。 ○補助金に係る支出は事業執行に必要最低限な経費とし、それ以外は受益者負担であるため妥当である。 ○費目・使途については事業目的に即した経費について支出し適正であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	村立幼稚園での特別支援が必要な園児に対し特別支援員を配置するとともに、中学校での習熟度に遅れのある通級児童生徒を対象に学習支援員を配置し、授業のサポートや課外学習として、中学生を対象に村営塾を開講し個々にあったきめ細かい学習支援を実施する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,348	5,022	6,696	24,090	
		(b) 予算現額	1,709	4,482	6,002	24,090	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,639	▲ 540	▲ 694	0	
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	1,709	4,482	6,002	24,090	
	B. 執行済額		1,709	4,482	6,002	22,822	
	うち交付金充当額		1,366	3,397	4,641	18,258	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	94.7%	
予算の状況の説明		当該支援員の免許更新がなされておらず、資格の関係で給与が下がったため減額となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	幼稚園特別支援員の配置1名	目標	(1名)	(1名)			
		実績	1名	0名			
	学習支援員の配置2名	目標	(2名)	(2名)			
		実績	2名	3名			
達成状況説明	幼稚園の特別支援員については1名配置を予定していたが、該当児童が進級したため小学校へ配置となり、未達成となった。 中学校の学習支援員については目標2名に対し2名を配置しており、活動目標を達成した。 小学校にも学習支援員を目標1名に対し、1名を配置しており、活動目標を達成した。 中学校の学習支援員の配置にあたっては、外部委託により対応し、村営塾の講師を兼任することで、学力向上に向け取り組んだ。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（H26）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
	学力テストにおける無回答率の減少	目標	(10.1%)	(8.0%)	(8.0%)	()	()
		実績		11.7%	6.08%		
	幼稚園教育における個々の学習環境の充実	目標	()	()	学習環境の充実	()	()
		実績			学習環境の充実		
	進捗状況説明	成果目標として設定した学力テストにおける無回答率については、平成27年度目標の8.0%を引き続き目標として掲げており、昨年達成できなかった目標を達成することができた。今後も継続的な支援により更なる向上を目指す。 また、同じく成果目標として設定した幼稚園における個々の学習環境の充実に対しては、専従の支援員を一人配置することにより、保護者との密な情報共有や協力体制が構築され、保健師や民生員、スクールカウンセラー等で組織する教育支援委員会と連携し、取り組みを進めることで、学習環境の充実が図られたが目標が幼稚園への配置となっており進級した児童への支援はなされたものの成果目標は達成していない。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	小学校支援員については、ひきつづき研修や指導・助言を行い、免許更新等順次確認しながら保護者も含めた意見交換の場を適時設ける必要がある。 また、学校での学習支援員については、学習到達度の低い児童生徒への保護者理解が更に得られるような取り組みを行っていく必要があると思われる。 また、事業の推進については、安定的な人材確保と保・幼・小・中の連動した系統的な支援方策が求められる。	支援が必要な児童生徒に対応するため、保護者や学校現場との密な連携や外部の専門家との連携により、早期の実態把握に努め、早い段階からの支援を推進する必要がある。 また、多様化する特別支援、学習支援の在り方について保護者ニーズを把握するとともに、保護者理解と協力をさらに得られる取り組みを通して学校・保護者との協力体制を築いていける方策を検討していく必要がある。
今後の取り組み方針		
平成28年度の実施結果を踏まえ、早期の人材・支援体制の確保に努め、支援が必要と思われる児童生徒の実態把握と個々に応じた支援方策の検討及び、発達段階に応じた系統的な支援カリキュラムを構築していく。 学習支援員に関しては、保護者と学校への浸透、理解と協力をさらに得られる取り組みを行っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22,822</td><td>22,822</td><td>18,258</td><td>4,564</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	22,822	22,822	18,258	4,564	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
22,822	22,822	18,258	4,564	0										
伊平屋村 22,822千円 賃金 1,662千円 幼稚園支援員賃金 1,662千円 〔 学習支援員の配置に係る臨時職員賃金:1名 〕 委託費 21,160千円 (社)教育振興会 21,160千円 〔 地域学力向上支援事業実施業務委託(派遣):3名 〕														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○有資格者の支援員を公募により選定したこと、委託費にかかる支出先については、業務実績、実務能力を精査し選定したことから妥当であったと考える。										
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○資格の有無により当初予算より減額となった。										
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○受益者である保護者には、夜間の生徒送迎、弁当の配達等を依頼しており負担関係は適当である。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目や使途についても事業目的に即した人件費及び委託費の支出であることから、妥当であると考えている。										

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	英語学習支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	
						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材を育成するため、小中学生を対象としたイングリッシュキャンプの開催による動機付けや、本村の中学生を海外に派遣し、異文化体験する機会を与え、将来の本村及び地域社会へ貢献できる人材の育成を推進する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,450	2,450	2,402	1,890	
		(b) 予算現額	1,909	1,994	1,974	1,890	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 541	▲ 456	▲ 428	0	
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	1,909	1,994	1,974	1,890	
	B. 執行済額		1,402	1,470	1,974	1,456	
	うち交付金充当額		1,121	1,176	1,160	1,165	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		73.4%	73.7%	100.0%	77.0%	
予算の状況の説明		当初計画していたイングリッシュキャンプが予定参加者数を下回ったため、434千円の不用となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	海外短期留学（アメリカ）：3名	目 標	（ 1回 ）	（ 3名 ）	（ 3名 ）	（ 3名 ）	
		実 績	1回	3名	3名	3名	
	イングリッシュキャンプ：40名	目 標	（ 1回 ）	（ 40名 ）	（ 40名 ）	（ 40名 ）	
		実 績	1回	9名	20名	16名	
達成状況説明	海外短期留学について、7月から8月にかけて3名の村内中学生を米国に派遣したほか、8月初旬に伊平屋イングリッシュキャンプと称した英語学習スクールを小中学生16名を対象に3日間の日程で実施した。 活動目標に設定した海外短期留学の目標は達成したが、イングリッシュキャンプは目標に対し、40%の達成状況となった。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（24年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	英語検定合格者の増加	目 標	（ ）	（ ）	（ 30名 ）	（ 30名 ）	（ ）
		実 績			30名	14名	
	留学終了後のムーンライトマラソン等のボランティア協力及び実践発表会開催	目 標	（ ）	（ 1回（40名） ）	（ 1回（40名） ）	（ 1回（40名） ）	（ ）
		実 績		1回（9名）	1回（23名）	1回（19名）	
	・島外英語スピーチコンテストへの派遣 3名	目 標	（ ）	（ ）	（ 3名 ）	（ 3名 ）	（ ）
		実 績			3名	3名	
	進捗状況説明	・海外短期留学については選考試験を行い計画通り3名の中学生を派遣し、ムーンライトマラソン等のボランティアに参加したほか、英語スピーチコンテストへは3名を派遣し、実践発表会でも英語スピーチを行うなど、計画どおり成果を発表した。 英語検定合格者は5級から2級までの検定に14名が合格し目標の30名を下回ったが、海外留学経験者のうち2名は3級、2名は準2級、1名は2級に合格するなど大きな効果がみられた。 ・イングリッシュキャンプについては、長期休暇中の為島外へ出かける児童生徒が多く計画参加者数を下回った。12月に開催した実践発表会では、英語での寸劇を披露するなど意欲的な取り組みが見えた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	○海外短期留学では語学力もさることながら、海外での生活に順応出来るような精神面の強化や生活指導等を行う必要がある為、事前に保護者も含め丁寧なオリエンテーションを行う。 ○児童生徒の英語学習における習熟度の発表の場が、島内だけでは限定的であることから、より効果的で児童生徒の関心度や向上心を高めるような取り組み方策が必要とされる。 ○イングリッシュキャンプの実施時期が夏休みであることから、児童生徒への周知徹底と保護者への説明会を早期に行う必要がある。	○生徒への指導のあり方として学校・家庭・地域・行政が一体となった協議会の中で、学力向上や生活支援、情操教育を徹底して行う。 ○英語習熟度を高めるための実践発表会等の実施数を増やすほか、英語検定試験の受験について継続的な推奨を学校と連携して行う。 ○イングリッシュキャンプについては、より多くの参加が見込めるようプログラムの検討を行うほか、英語講師の獲得に向け関係機関との連携強化を行うとともに、児童生徒や保護者への呼びかけを学校現場と連携して行う。また、目標数値については、再度検討を行う。

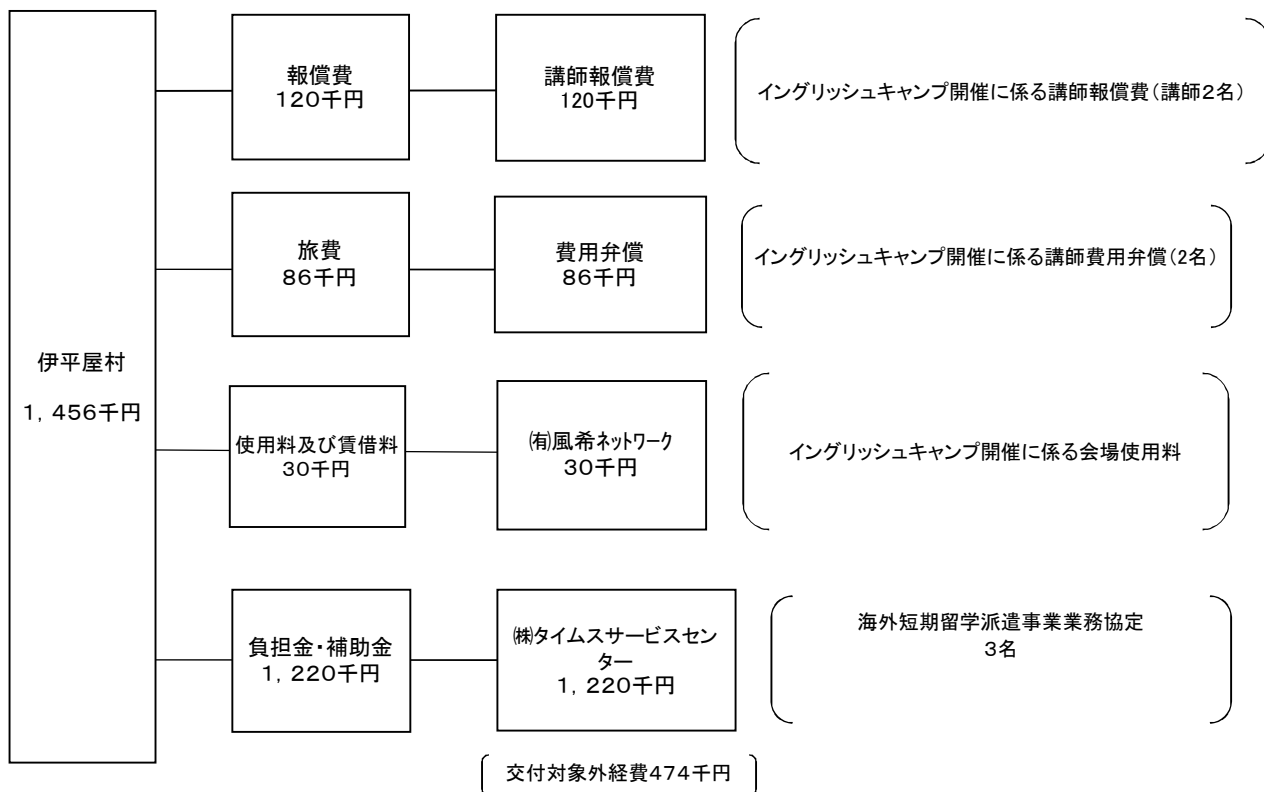
今後の取り組み方針

- 平成29年度も引き続き事業を推進し、学習規律や英語教育のさらなる充実をはかり英検3級取得者の増加を目指す。
- 児童生徒の英語学習への関心度を向上させるため、英語スピーチコンテストへの参加推奨や、英会話教室への積極的な参加を促す。
- 短期留学への経験者へ夏休み中の島内英語キャンプへのボランティアを依頼し、継続的な連携を図る。
- 英語キャンプの募集について、学校と連携し児童生徒への周知を図る。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付対象 事業費		交付対象 外経費
		交付金 充当額	市町村 負担金	
1,930	1,456	1,165	291	474



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内では有人キャンプ施設が1カ所しか無く、いへや愛ランドよねざきでのイングリッシュキャンプの実施は妥当であったと考える。また、海外短期留学の委託先は豊富な業務実績と留学前後の事前、事後指導を含めた委託内容から妥当であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	△：予算については当初のイングリッシュキャンプ参加人数を確保出来ず、実施額が減額となった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○短期海外留学においては事業費の10%を受益者が負担したことから妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的のみに限定したことから妥当であったと考える。

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	伊平屋島児童・生徒島外派遣等支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
事業内容	村外で実施されるスポーツ大会や文化交流等各種教育活動に積極的に参加し、離島の小規模校では経験できない他地域での各種体験をとおり、児童生徒の健全な育成を推進するため、派遣費用を助成する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	26年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	3,830	2,564	1,880		
		(b)予算現額	3,830	2,799	1,880		
		(c)増減額（b-a）	0	235	0		
		(d)繰越額	—				
		A. 計（b+d）	3,830	2,799	1,880		
	B. 執行済額		2,422	2,799	1,534		
	うち交付金充当額		1,274	2,028	1,227		
	次年度繰越額						
	執行率（％）（B/A）		63.2%	100.0%	81.6%		
予算の状況の説明		当初計画の枠内での運用であるが、派遣回数は当初の想定より上回ったが、大会により児童生徒の人数の増減があるため、人数は中学生においてはH27年度の実績を下回った。想定していた大会が天候により出場できなかった件もあって、346千円が不用となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	当該開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加（小学生5回・110名）	目標	（ ）	（ 3回 ）	（ 5回110名 ）	（ 5回110名 ）	
		実績		11回	18回243名	11回150名	
	当該開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加（中学生6回・51名）	目標	（ ）	（ 6回 ）	（ 6回62名 ）	（ 6回51名 ）	
		実績		20回	34回306名	16回110名	
達成状況説明	村内児童生徒対象の事業で、島外へのスポーツ大会や交流学習等への派遣を行った結果、小中共に目標回数、人数も上回った。 島内では体験できない学習機会やスポーツ大会への参加を通してのスキル向上ができ、バレーについては小学生クラブが決勝常連校となり、準優勝3回、中学校バレー部においても県大会ベスト4入りを果たした。英語スピーチコンテスト等への派遣も英語力向上にも成績向上にもリンクしており、受験生への良い刺激ともなっている。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	補助の実施による保護者の経済的負担の軽減	目標	（ ）	（ 経済的負担の軽減 ）	（ 経済的負担の軽減 ）	保護者の経済的負担の軽減	（ ）
		実績		経済的負担の軽減	経済的負担の軽減	経済的負担の軽減	
		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実績					
	進捗状況説明	スポーツ面において強豪校の仲間入りを果たした一方、それにつれて場数を踏ませてメンタル及び技術向上を図りたい保護者や指導者の意向もあり、島外の試合・練習試合への出場回数は増加傾向にある。知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成を支援するために島外派遣事業を活用できる大会を精選しているが、それでも小中合わせて延べ27回の派遣補助を行い、その分の船賃、宿泊費の負担軽減ができています。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	交流機会の少ない児童生徒への派遣事業により、スポーツでのスキルアップや、試合を通じてのメンタル強化、大会成績の向上など、事業効果が発現される一方、遠征による生活リズムの乱れが見受けられることから、派遣補助の対象大会を精選している現状がある。	本事業の継続的な事業効果を図るため、文武両道の観点からスポーツ大会偏重ではなく、文化・学習面での交流や発表会等への派遣も積極的に行うよう指導・助言していく。また、スポーツ関連の派遣補助対象大会も引き続き精選していく。
今後の取り組み方針		
スポーツ大会に重きが置かれすぎている感が否めないため、文化や学習等の交流・派遣を推奨していく予定。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,600</td><td>1,534</td><td>1,227</td><td>307</td><td>66</td></tr> </tbody> </table> 伊平屋村 1,534千円 負担金補助及交付金 1,534千円 村内児童生徒 1,534千円 児童生徒島外派遣等補助金 小学生：11回・延べ人数150人・701千円 中学生：18回・延べ人数110人・900千円 交付対象外経費66千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,600	1,534	1,227	307	66
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,600	1,534	1,227	307	66										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は児童生徒の所属する団体であったことから妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算については対象外経費を含んでいるが、実績報告にて適切に算定したことから、適正であったと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○船運賃及び宿泊費以外の経費については受益者が負担したことから妥当であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。											

市町村名	伊平屋村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑤	学校ICT推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア			
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充			
事業内容	小・中学校の教育用パソコン、電子黒板等のICT環境を整備し、児童生徒の情報活用能力を育成するとともに「分かりやすい授業」を実践し「確かな学力」を定着させ、将来を担う人材育成を推進する。							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,374	34,995				
		(b) 予算現額	14,580	30,348				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,794	▲ 4,647				
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	14,580	30,348				
	B. 執行済額		14,580	30,348				
	うち交付金充当額		11,664	24,278				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%				
予算の状況の説明		備品購入にあたり、見積仕様書を見直したことから、予算現額を4,647千円減額した。						
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	伊平屋小学校・伊平屋中学校・野甫小学校電子黒板等の整備 ①電子黒板：17台	目 標	(17台)	()	()	()	()	
		実 績	17台					
		②教育用コンピューター 23台	目 標	(23台)	()	()	()	
			実 績	23台				
		③学習用ソフトウェア 一式	目 標	(1式)	()	()	()	
			実 績	1式				
	達成状況説明	当初、伊平屋小学校、伊平屋中学校、野甫小学校に25台の電子黒板及びデジタル教材14教材を整備する予定であったが、伊平屋小学校の校舎改築事業との干渉を避けるため、当該事業の内容変更及び成果目標の変更を行い、新たな成果目標として電子黒板17台、教育用コンピューター23台、学習用ソフトウェアを整備することとし、変更計画どおり活動目標を達成した。						
	成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）			基準値（27年度）	28年度	29年度	30年度
ICTを活用した授業の割合 ①小学校25%（H27 10%）		目 標	(10%)	(25%)	()	()	()	
		実 績		25%				
②中学校30%（H27 25%）		目 標	(25%)	(30%)	()	()	()	
		実 績		30%				
進捗状況説明		年度途中からの運用であったが、予定どおり授業導入時や補習等にて電子黒板を活用した教材やフラッシュ暗算等のソフトウェアの活用により児童生徒の習熟度の向上に寄与し、成果目標を達成出来た。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	○年次計画の中でITスキルの習得に向けた指導方を確立する必要がある。 ○ITスキルの向上に向けた指導強化を図る必要がある。 ○本村では1年から2年のサイクルで教員が離着任することから、新任教諭を含めた総ての教員がICT機器の特性と有用性を理解し、操作技術を早期に習得出来るよう、デジタル教材の共有化や操作マニュアルの共有、簡素化を図る。 ○次年度以降、ICT機器を活用した島外との交流授業を計画していることから、通信ネットワーク環境の整備についても必要な措置を講じる必要がある。	○楽しくITスキルを習得できるよう、専用ソフトの導入を図る。 ○総合の学習の時間を活用した操作スキルや情報活用能力の向上を図る。 ○ICT機器の活用については年度途中からの導入となり、年間授業計画や授業時数確保の観点から、年間授業時数における活用率は30%に留まったが、次年度以降の年間授業計画には、1日の授業において総ての児童生徒へICT機器を活用した授業展開が行えるよう指導案に織り込む。 ○指導力向上に向けた教職員向け講習会を年3回程度実施する。 ○必要に応じ、ICT支援員の配置についても検討を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
○今後も児童生徒が新たなOSやソフトに触れる機会を増やし、IT技術の習得に向けた取り組み方を強化するとともに、ICT機器を活用したわかりやすい授業とあわせ、他校との交流授業や、高等教育機関との遠隔授業の実施を目指し、学習意欲の向上と基礎学力の定着化を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30,348</td><td>30,348</td><td>24,278</td><td>6,070</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	30,348	30,348	24,278	6,070	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
30,348	30,348	24,278	6,070	0										
<pre> graph LR A[伊平屋村 30,348千円] --> B[備品購入費 30,348千円] B --> C["(株)OCC 30,348千円"] C --- D["電子黒板17台・タブレット型PC23台"] </pre>														
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○三社見積により備品調達を行ったことから妥当であったと考える。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初計画から内容変更を行った結果、4,647千円の現額となったが変更計画の目的に沿ったICT機器の導入が出来た。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は事業目的に沿って、教育用コンピューター及び電子黒板、関連するソフトウェアの導入に限定したことから妥当であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑥	伊平屋島起業家人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部課名	総合推進室	事業実施（予定）年度	平成26～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
事業内容	島の活性化に欠かせない人材育成を中学卒業までの間に米やサトウキビ等島内産の特産品を活用した商品開発、沖縄本島での様々な職種に触れる実践及び経験等を交え、島での産業発掘をテーマに起業する力を身につけさせる。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,235	4,791	4,908		
		(b)予算現額	4,039	4,452	4,008		
		(c)増減額（b-a）	▲196	▲339	▲900		
		(d)繰越額	—	—	—		
		A. 計（b+d）	4,039	4,452	4,008		
	B. 執行済額		4,039	4,442	3,787		
	うち交付金充当額		3,231	3,561	3,029		
	次年度繰越額						
	執行率（％）（B/A）		100.0%	99.8%	94.5%		
予算の状況の説明		学校側より、今年度授業コマ数の削減要望があり要望案に沿ってカリキュラムを実施したため、900千円減額した。また、海上気象等の影響により、講師派遣が出来ない日が発生したため、220千円の不用額が生じた。その他予算は、学校側の協力・理解を頂き、概ね執行が出来た。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	起業家人材育成 中学1年生18名 中学2年生21名 合計 39名	目 標	（ 3種程度の特産品開発 ）	（ 人材育成中学生39人 ）	（ 人材育成中学生39人 ）	（ ）	
		実 績	1種の特産品開発	人材育成中学生39人	人材育成中学生29人		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績					
達成状況説明	・村内在住の中学生が、県内企業と共同で、地域資源の掘り起こしを行い、特産品開発を実施した。目標人数未達成の主な要因としては、新年度様々な団体の人事異動に伴い、生徒の転入予定者を見越していたものの転入者が1名しかおらず、目標人数の未達成となった。 ・前年度制作した特産品は進級した2年生時に本島での職場体験時、「特産品フェア」を実施し、販促体験を行った。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
	プレゼン力の向上 パワーポイント活用者 中学1,2年生 39名 発表会開催（パワーポイント活用した発表）	目 標	（ ）	（ パワーポイント活用者 39名 ）	（ パワーポイント活用者 39名 ）	（ ）	（ ）
		実 績		パワーポイント活用者 39名	パワーポイント活用者 29名		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
	進捗状況説明	地域資源の掘り起こしを行い、特産品開発を実施した活動や島外での職場体験展開時に昨年度自ら開発した特産品の販促体験を実施を全員がパワーポイントを活用しプレゼンの向上を行ったが、目標である39名在籍していないため、未達成となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	学校の総合の学習時間を活用した、事業展開を実施。学校の授業時数の関係により、活用できる時数が増減するため予算執行に影響を及ぼす恐れがある。	次年度の活用可能な授業時数の決定を予算措置までに対応可能な調整を行う必要があり、職場体験を依頼する企業や学校との調整が必要。
今後の取り組み方針		
学校との連携を強化したうえで、授業時数の調整などについては早い段階から調整を行い、授業時数の確保を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		3,787	3,787	3,029	758	0

伊平屋村
3,787千円

→

報償費
590千円

→

芸大教授・企業家
590千円

→

芸大教授
各メーカー部長・課長級

→

旅費
2,166千円

→

芸大教授・学生旅費・企業家・
生徒・教諭旅費
2,166千円

→

芸大教授・学生・メーカー
島内教諭生徒の旅費

→

需用費
32千円

→

試作品用原材料・ホストイト他
32千円

→

会議用用紙他

→

役務費
998千円

→

試作品作成手数料
広報用DVD作成手数料
998千円

→

アイスサンプル
販促体験広報活動用DVD

資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、この事業に突起した企業等を選択、継続的な事業であるため、専門性が高く妥当であるとする。 ○予算規模は事業内容を精査したところ、不用がったため、見直す必要があった。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について支出に関する書類により確認し、適正であった。
	×	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		3-⑦ 伊平屋村「ふるさとの音景」CD制作プロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(2)-ア			
担当部署名		総合推進室		事業実施（予定）年度 平成28年度		教育機会の拡充			
				沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-3-(1)			
事業内容		島の生活の中で生まれる「音」を収録したCDを制作し、「島発ち」を迎える15歳の村内在住者、成人式で帰郷する方等に対し、音によるメッセージで情報発信を継続的にを行い、村の愛着の萌芽、望郷の念の醸成に取組、今後村の振興発展に寄与する人材を育成、再発掘を行う。							
実施方法		■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）				28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
		予算の状況	(a) 当初予算額	1,714					
			(b) 予算現額	1,714					
			(c) 増減額 (b-a)	0					
			(d) 繰越額						
			A. 計 (b+d)	1,714					
		B. 執行済額		1,700					
		うち交付金充当額		1,359					
		次年度繰越額		-					
		執行率（％）(B/A)		99.2%					
予算の状況の説明		伊平屋村の子どもたちと制作した楽曲「ふるさとの宝箱」については、ギターのみで演奏し、子どもたちが合唱した音を録音することを当初想定していたが、より伊平屋らしさを表現することと、制作したときの胸が踊る様子を表現するために、三線と太鼓のアレンジを加えたが、概ね当初想定どおりに執行することが出来た。							
活動目標（指標）及び達成状況		H28活動目標（指標）		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度		
		①伊平屋村の日常の音の収録（波風、まつりの音、学校校歌等）②島の子供達と作詞作曲した「ふるさとの宝箱」の収録③ムーンライトマラソンテーマソング収録④ジャケットデザイン編集⑤CDプレス	目標	（ CD制作業務 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
			実績	①～⑤全行程実施					
		⑥インターネットプロモーション用ダイジェスト映像作成	目標	（ 動画制作業務 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
			実績	動画制作の実施					
達成状況説明	完成したCDは伊平屋村の幼稚園児・小学生・中学生に1人1枚ずつ配布し、各世帯にも1枚ずつ配布した。中学校卒業と同時に進学で島を離れる「島発ち」の際に、CDを持って島を離れる生徒もいた。また、学校の昼休憩でCDを流したり、村の防災無線でも活用している。子どもたちからは、「自分たちで作った歌がカタチになって嬉しい」などといった感想が寄せられている。また、伊平屋村出身ではない方からは「自分のふるさとの音を聞きたくなった」という感想もあった。ふるさとの良さを再認識したり、ふるさとに対する愛情や、誇りの醸成につながったと考えられる。								
成果目標（指標）及び進捗状況		H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）	
		「ふるさとの音景」CD制作 1,000枚	目標	（ ）	（ 1,000枚 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
			実績		1,000枚				
			目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
			実績						
		進捗状況説明	CD納品後、村内各世帯に無料配布村内中学校（2校）の卒業式にて卒業生配布し、村郷友会員へ配布。関東伊平屋会へも広く周知し配布した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・島内定住人口が年々減少状況にある。そこで、ふるさとへの望郷の念を醸成したCDの作成、Uターン者の取り込みを狙う。 ・村内に散見している音源を収録する際、現在創出している音（行事や取組等）が多くあることが発見。今後はその取組の掘り起こしも必要となる。 ・Uターンの希望者だけでは人口増加が厳しい状況にある。 ・現状では転出が転入を上回っている村内の状況を中庸におく取組を普遍的に行う。 ・高校進学で離村する流出人口が同数程度の人数が村に環流する仕組みを構築して人口の減少過疎化を止める取組を行う。	・「ふるさとの宝箱」CDを郷友会総会や成人式で配布する取組を行う。そこで村内の方だけのUターンだけでは人口増加が厳しい状況にあるため、村内だけでなく島外からのIターン、Jターンも増やす取組を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
郷友会総会や成人式でのCD配布を行い、ふるさとへの愛情や望郷の念を醸成し、Uターンの機会を作る。また、島外へのPRイベント等にも使用し、広く活用していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,700</td><td>1,700</td><td>1,359</td><td>341</td><td>0</td></tr> </table> 伊平屋村 1,699千円 委託料 1,343千円 株式会社ルーツ 1,359千円 事務費 356千円 〔 報償費、旅費、需要費 〕 〔 CD制作、プロモーション用ダイジェスト映像制作 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,700	1,700	1,359	341	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,700	1,700	1,359	341	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選択は三社見積りで比較を行い、市町村の魅力を伝える発刊物等の制作実績があり妥当と考える。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容を鑑みて適正な規模と考える。											
	×	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者については、負担が無いため、検討が必要だと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○使途に関しては事業目的に即し真に必要なものか検査にて精査し判断したため妥当である。											

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	幼稚園預かり保育支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ			
				地域における子育て支援の充実			
担当部課名	伊平屋村教育委員会	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9		
事業内容	伊平屋島の定住条件を整備するため、幼稚園預かり保育強化として嘱託保育士を配置する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,700	1,750	1,700	1,700	2,268
		(b) 予算現額	1,250	1,693	1,729	2,066	2,268
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 450	▲ 57	29	366	0
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	1,250	1,693	1,729	2,066	2,268
	B. 執行済額		1,250	1,693	1,729	2,066	2,208
	うち交付金充当額		999	1,354	1,383	1,360	1,766
	次年度繰越額						
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.4%
予算の状況の説明		保育士等の雇用条件の見直しに伴い、月によって賃金が増減した結果、当初予算より60千円不用額が生じた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	嘱託保育士の配置：1名	目 標	（ 1名 ）	（ 1名 ）	（ 1名 ）	（ 1名 ）	
		実 績	1名	1名	1名	1名	
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績					
達成状況説明	本村、伊平屋幼稚園において平成28年4月から平成29年3月の期間、保育士1名を配置した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（29年度）
	預かり保育対象児童数：6名程度	目 標	（ ）	負担軽減健全育成	負担軽減健全育成	6名負担軽減	（ ）
		実 績		負担軽減健全育成	負担軽減健全育成	8名負担軽減	
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
	進捗状況説明	・8名（幼稚園在籍幼児全員）の預かり保育対象児童に対して預かり保育を実施し、共働き世帯の負担軽減、園児の健全育成の推進に寄与出来た。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	預かり保育サービスの定着化により、今後もニーズが高まると予想される。一年保育の幼稚園生活であるため保護者の入れ替わりも激しいため、入園前の園児の実態や保育内容等、保育所や保健師等との情報交換や共通認識を図りつつ、今後も事業遂行していく必要がある。	年度により大幅に増減する児童数に対応するため、学校現場との密な連携や協力体制を構築する必要があることと、多様化する保護者ニーズに対し、勤務体制や休日の設定等勤務環境とのバランスを取りながらよりよい幼児への保育サービスを展開していく必要がある。
今後の取り組み方針		
平成29年度以降も引き続き預かり保育を継続し、対象児童の増減、保護者の入れ替わりの激しさについては、適正なスタッフの配置や管理体制について適時検証を行うとともに、保護者ニーズに対応していく。また、保幼小の接続を意識した情報交換の場を創出するとともに、系統的な保育サービスを提供できるよう、保護者を含めた協議の場を多めに設定し、情報の共有化と相互理解を深める。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,208</td><td>2,208</td><td>1,766</td><td>442</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 伊平屋村 2,208千円 賃金 2,208千円 保育士賃金 2,208千円 嘱託保育士の配置に係る 臨時職員賃金：1名					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,208	2,208	1,766	442	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,208	2,208	1,766	442	0										
資金の流 使途の点 検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出費目は保育士賃金のみであり、公募による募集を行い選定したことから妥当であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は保育士1名の賃金であり、事業内容に見合った適正な規模である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○保護者より預かり保育料を適切に徴収しており受益者との負担関係は妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	伊平屋村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-②	慢性疾患児童等通院時渡航費助成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部課名	住民課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9		
事業内容	島内に無い専門医療健診の受診促進のため、通院に要する船賃、宿泊費等を助成する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,160	2,161	1,589	1,589		
		(b) 予算現額	189	1,307	1,619	852		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,971	▲ 854	30	▲ 737		
		(d) 繰越額						
		A. 計 (b+d)	189	1,307	1,619	852		
	B. 執行済額		189	1,307	1,567	852		
	うち交付金充当額		151	1,046	1,254	682		
	次年度繰越額				0	0		
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	96.8%	100.0%		
予算の状況の説明		当初60回を予定していたが、該当者が通院を不要としたため、目標を30回に変更した。						
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	慢性疾患児童等通院時渡航を支援する。 30回	目 標	(96回)	(60回)	(30回)	()		
		実 績	33回	72回	47回			
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	当初60回を予定していたが、該当者が通院を不要としたため、目標を変更し30回としたため、目標を達成した。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）			25年度	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	専門医通院治療に係る住民負担の軽減	目 標	()	(住民負担の軽減)	(住民負担の軽減)	(住民負担の軽減)	()	
		実 績		住民負担の軽減	住民負担の軽減	住民負担の軽減		
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	小児慢性特定疾患2名、その他慢性疾患等8名の計10名が利用し、1人あたり4.7回の島外専門医療機関に係る渡航費助成を行い、住民負担の軽減となった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	島外の専門医療機関へ通院を余儀なくされていた者の経済的な負担を余儀なくされていることから、必要な医療を適切に受けることができるよう、渡航費等について、助成を行う必要があるが、村民への啓蒙活動を強化する必要がある。	専門医療機関へ通院を行う対象者が減少傾向にあるが、真に当該事業を必要とする村民への周知を徹底する必要がある。
今後の取り組み方針		
当該事業を推進する上で、事業内容を村民に理解させ、広く利用するよう広報誌や住民健診等や村内医療機関でパネル設置を行い、啓蒙活動を強化する。また、継続的に渡航する必要のある対象者に対しては、引き続き助成を促す。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>852</td><td>852</td><td>682</td><td>170</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 伊平屋村 852千円 負担金補助金及び助成金 852千円 慢性疾患児童等 通院対象者 852千円 小児慢性特定疾患等の治療のための通院に係る渡航費助成					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	852	852	682	170	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
852	852	682	170	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は助成対象者のみ該当するため、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 通院が不要となった等の理由により当初予算を減額したため、適正である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 離島の特殊事情に伴う地域格差は正に係る額を助成するため受益者負担は妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 費目・使途については申請段階で審査するため、目的に即し、必要と判断している。											

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	ウェルネスいへや推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部署名	住民課	事業実施(予定)年度	平成27～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	高齢者社会や地理的要因から生ずる医療格差に対応するためには、病気にかからない予防対策が非常に重要である。そこで、健康づくりは自ら行い、地域で支え合う環境を整備するため、各字公民館にフィットネスプログラム映像機器設置(CG映像を活用した運動メニューの提供)と健康教室を開催する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,891	3,207			
		(b)予算現額	4,107	3,207			
		(c)増減額(b-a)	▲784	0			
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	4,107	3,207			
	B.執行済額		4,107	3,149			
	うち交付金充当額		3,285	2,519			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.2%			
予算の状況の説明		ウォーキング大会などの野外活動により施設使用料等の執行がなかったため、不用とした。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	フィットネスプログラム映像機器を5集落に設置	目標	(5集落)	(5集落)	()	()	
		実績	5集落	5集落			
	フィットネスプログラムを活用した健康教室の開催(年間12回)	目標	(12回)	(12回)	()	()	
		実績	61回	25回			
達成状況説明	各字公民館、伊平屋村離島振興総合センター及び伊平屋村産業連携拠点センターにおいてフィットネス映像機器を使用した健康教室や講師を招いてのヨガ教室、バドミントン教室を計25回行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	住民健診の受診率の向上 H27年度59.9%→H28年度65.0%	目標	()	(65.00%)	(65.0%)	()	()
		実績		59%	65.0%		
	一人当たりの運動習慣の向上 H27年度41%→H28年度55%	目標	()	(50%)	(55%)	()	()
		実績		41%	36.9%		
	進捗状況説明	住民健診の受診率は前年度と比べ目標を達成しているが、運動習慣の向上については、プログラムを継続的に提供したためマンネリ化や趣向の変化により下回った要因だと考える。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村において唯一の医療機関は県立北部病院附属伊平屋診療所であり、そこで治療が困難な場合は沖縄本島の医療機関への受診を余儀なくされている状況である。そのため、簡単に病気にかからないための体力づくりや近年増加傾向にある精神疾患等の予防対策が必須である。しかしながら、本村にはフィットネスクラブやスポーツジムなどの運動を専門的に提供する施設がないため、各字公民館などの公共施設や島の自然環境を活用し健康教室を定期的に開催することで運動習慣を身につけるサポートを行う必要がある。また、各字公民館を利用することで距離的にも気持ち的にもその地域住民が参加しやすく、地域で支えあう環境づくりのきっかけへと繋がると考える。	フィットネスプログラムを活用した教室において同じようなプログラムだけではなく、年齢層や性別等を考慮したプログラムの提供を行う必要がある。その際に、事前にターゲットやプログラムを決めて運動教室への参加呼びかけを行う。また、広報誌への掲載やチラシ配布等、情報発信も積極的に行い、健康や運動への興味を引きつける。さらに、精神の健康も病気にかからない体づくりには欠かせないため、健康教室においては運動だけではなく、癒やし等も取り入れていく必要がある。
今後の取り組み方針		
フィットネスプログラムを活用した運動を取り入れつつ、さまざまな健康教室等を開催し、健康に対する興味や関心を高め、地域で支えあう環境を整える。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,149</td><td>3,149</td><td>2,519</td><td>630</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,149	3,149	2,519	630	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,149	3,149	2,519	630	0										
伊平屋村 3,149千円 報償費 60千円 旅 費 601千円 使用料及び賃貸料 2,488千円 謝礼金 費用弁償 フィットネスプログラム映像機器機使用料														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、フィットネスプログラム映像機器のサポート団体や専門的な講師を招いた際の旅費や謝礼、機器等の借上料であり、本事業の運営に必要と判断したため妥当である。 ○予算規模については、事業内容にあった機材や講師謝礼等であり真に必要な経費を支出したため、適正である。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から一件書類により確認し適正であったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④ 住民健診フォローアップ推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(11)-イ		
担当部署名	住民課	事業実施（予定）年度	平成27～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上	
事業内容	住民健診の結果により、がん検診等において要精密検査となった者やメタボリック・シンドローム及びその予備軍を対象とした二次健診の受診に掛かる渡航費を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,114	1,094			
		(b) 予算現額	261	438			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 853	▲ 656			
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	261	438			
	B. 執行済額		261	412			
	うち交付金充当額		209	330			
	次年度繰越額						
	執行率（％）(B/A)		100.0%	94.1%			
予算の状況の説明		2次健診の対象者が減少したため、当初予算より大幅に減額した。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	住民健診等による精密検査等再検査の渡航費支援 24人	目 標	(60人)	(24人)	()	()	
		実 績	16人	33人			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	住民健診結果説明会にて対象者への声かけ、広報誌等への掲載により目標としていた24人より9人多い、33人の精密検査等再検査に係る渡航費助成を達成した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
	精査等未受診率の減 H27年度 51%→平成28年 30%	目 標	()	(30%)	(30%)	()	()
		実 績		30%	20.4%		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	精査等未受診率を30%を想定していたが、呼びかけを強化したこともあり未受診率が減となった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村には県立北部病院附属伊平屋診療所しかなく、要精密検査となった場合に島外医療機関を受診しなければならない。そのため医療費の他に渡航に伴う住民の経済的な負担等が必須の状況である。 未受診者は減っているが、やはり島外医療機関での受診は経済的負担が大きく、また時間的な拘束や同行者を必要とする場合の親族等の協力を要するなどの理由から二次検診の勧奨を行うが前向きな回答が得られていない。	当該事業の取組について、広報等を用いた啓蒙活動及び住民健診の結果説明会での保健指導の際に対象者への声かけを積極的に実施する。また、対象者の家族や勤め先にも協力依頼を行い、当該事業の活用を促す。もし、対象者に同行が必要とされる場合は同行者への助成も検討するべきと考える。
今後の取り組み方針		
当該事業の対象者だけではなく、その家族にも協力を呼びかける。また、村内医療機関、企業等にも当該事業への理解を深めてもらい、声かけや早期受診を促進する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>412</td><td>412</td><td>330</td><td>82</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	412	412	330	82	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
412	412	330	82	0										
伊平屋村 412千円 負担金補助金及び助成金 412千円 住民検診フォローアップ通院対象者 412千円 （住民検診フォローアップのための通院に係る渡航費助成）														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は助成対象者のみ該当するため、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 申請に対しての助成となるため、事業内容に見合い適正である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 離島の特殊事情に伴う地域格差は正に係る額を助成するため受益者負担は妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 費目・使途については申請段階で審査するため、目的に即し必要と判断している。											

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑤	地域自立支援推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(7)-ア	
担当部署名	総務課	事業実施（予定）年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県民の社会参加活動の促進と協働の取組の推進 Ⅲ-9	
事業内容	行政と地域が協働して行う島づくりの体制の構築に向けて、地域が自主的に考え取組みのためのワークショップ開催を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	8,000	2,500	500	500	
		(b)予算現額	2,837	1,844	540	752	
		(c)増減額（b-a）	▲5,163	▲656	40	252	
		(d)繰越額	—				
		A.計（b+d）	2,837	1,844	540	752	
	B.執行済額		2,837	1,844	540	752	
	うち交付金充当額		2,269	1,475	432	602	
	次年度繰越額						
	執行率（％）（B/A）		100.0％	100.0％	100.0％	100.0％	
予算の状況の説明		地域住民に対するワークショップ及び資料整理を民間コンサルタントへ委託を行い、各集落とも数回、意見交換・情報共有の場を回数を増やしたため増額となったが、概ね適正である。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度
	行動計画の実施及び成果確認（ワークショップ10回）	目標	（ワークショップ10回）	（ワークショップ10回）	（ ）	（ ）	
		実績	ワークショップ10回	ワークショップ10回			
		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実績					
達成状況説明	行政と住民が協働して行う島づくりの体制構築をするため、住民主導型のワークショップの開催を各集落2回、合計10回開催した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
	行政と住民が協働で行う島づくり体制の強化	目標	（ ）	（体制強化）	（体制強化）	（ ）	（ ）
		実績		体制を強化の実施	体制を強化の実施		
	作成した行動計画の着実な実施	目標	（ ）	（行動計画の実施）	（行動計画の実施）	（ ）	（ ）
		実績		行動計画実施完了	行動計画実施完了		
	進捗状況説明	平成27年度から継続して行われているワークショップなどの行動計画や意見交換等で地域からあがった諸計画が遂行され、住民の地域行事への参加が促進されている。ワークショップを各集落2回合計10回開催し、地域住民による地域自立促進のための収益事業の企画案がまとまっている。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	各集落において、ワークショップや意見交換会に参加する住民の構成に未だ偏りがある。各集落の人口構成や文化や歴史的な背景が原因と推測されるが、体制構築及び継続的な活動強化の為に、さらにさまざまな年代にアプローチをかけ、特に若年者の積極的な参加を促し、幅広い年齢層からの意見を求める取組が必要。	行動計画に取り組む上で、地域住民の積極的な参加が必要なことから、各年齢層、壮年会等の各団体への説明会も積極的に行い住民意識の高揚が必要。 平成29年度から本格的な実施に取り組むが、各集落でまとまった企画事業について専門的なアドバイザーの確保と予算的支援のための補助メニュー確保が必要。また、スムーズに計画が進められるようコミュニケーションを密にはかり、慎重に取り組んでいく。
今後の取り組み方針		
各集落が地域の課題を主体的に解決できる体制づくりを支援するために、専門的なアドバイザーを派遣。関連する施策との相乗効果発現を図るために、各種研修の実施や、情報の提供及び共有化を図り、事業の継続支援を行う。現在、行政に頼りすぎている地域特性を改革するため、各集落の住民自ら率先して事業へ取り組むための予算の確保、事業計画立案等ができる人材育成を促進する。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
752	752	602	150	0

伊平屋村
752 千円

委託料
752 千円

協同組合 沖縄産業計画
752 千円

伊平屋村地域自立支援推進計画策定業務委託
(ワークショップ開催支援 10回)

資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務については、前年度からの継続事業であり、業務内容の熟知と地域の実情把握等を鑑み選定していることから適正と考える ○予算規模は、事業内容であるワークショップ開催回数との合わせ適正であると考え。 ○費目、使途については事業目的達成の観点から確認。額の各知恵については、報告書等を確認し適正と判断している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑥ 集落環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(7)-ア		
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県民の社会参加活動の促進と協働の取組の推進	
						Ⅲ-9	
事業内容	地域住民による自助、共助、公助の仕組みづくりを促進するため、住民協働による、清掃活動、拝所の修繕、危険箇所対策等主体的な取り組みについて支援する。						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	5,000	5,000	5,000	
		(b) 予算現額	3,000	5,000	5,000	5,000	
		(c) 増減額（b-a）	▲ 2,000	0	0	0	
		(d) 繰越額					
		A. 計（b+d）	3,000	5,000	5,000	5,000	
	B. 執行済額		3,000	5,000	5,000	3,800	
	うち交付金充当額		2,400	4,000	3,840	3,040	
	次年度繰越額						
	執行率（％）（B/A）		100.0%	100.0%	100.0%	76.0%	
予算の状況の説明		当初の計画通り1地区1,000千円で、3地区に助成。1地区は200千円減額。実績報告の提出が遅れたため減額。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	実施計画	目標	(計画実施支援5集落)	(計画実施支援5集落)	(計画実施支援5集落)	(計画実施支援5集落)	
			実績	計画実施支援5集落	計画実施支援5集落	計画実施支援5集落	計画実施支援4集落
達成状況説明	1. 老人会・婦人会が中心となり花いっぱい運動や公園・集落等の清掃などを行う。2. 青年会・壮年会世代が中心となり集落内の排水溝・危険箇所等の改善・補修作業を行う。3. 豊年祭やその他古くから行われている地域行事等への参加。スポーツイベント等を通して健康増進に取り組む。4. 各集落の地域住民が率先してさまざまな地域行事等参加することにより自助・公助の推進、各年代の地域住民が協力して取り組むことを目的とした。5. 地域における防災の意識を育むため、避難訓練等を各地域で行うことにより、避難場所等の位置確認などを共有し、災害等から身を守る防災意識を高めるため取り組む。6. 1地区は、計画実施・報告までの流れがスムーズに行えなかったため不参加となった。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	行政と住民が協働で行う島づくり体制の強化	目標	()	(体制強化5集落)	(体制強化5集落)	(体制強化)	()
		実績		体制強化5集落	体制強化5集落	体制強化	
	作成した行動計画の着実な実施	目標	()	(行動計画実施5集落)	(行動計画実施5集落)	(行動計画実施)	()
		実績		行動計画実施5集落	行動計画実施5集落	行動計画実施	
	進捗状況説明	各集落の環境美化及び観拝所等の安全対策としてハブ等の危険生物が出没する箇所の周辺整備や害虫発生抑制対策として集落内排水溝等の清掃を実施し、行政と住民が協働で行う島づくり体制の強化をおこなうため、行政懇談会や区長会でさまざまな意見交換・情報交換を実施し、作成した行動計画を着実に実施した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	神社・公園等の文化財整備、集落内危険箇所整備、集落内環境整備で地域住民の各年齢層の参加が増えつつある状況。	今年度の集落環境整備については、計画通り実施できた地域とできなかった地域があった。平成29年度で終了となる事業だが、29年度事業を終了後も地域住民が中心となり地域コミュニティの向上とどの年齢層でも参加しやすいコミュニケーションの充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
平成29年度で終了を迎える事業だが、今後もこのような取組が継続できるよう、地域住民の協働については、各年齢層の参加をさらに推進していきたい。また、各集落の地域住民が中心となり、地域のリーダーとの連携をさらに深め、今後は地域が自立し環境づくりを促進していくため、地域コミュニティの向上と地域活性化を推進していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,800</td><td>3,800</td><td>3,040</td><td>760</td><td>0</td></tr> </table> <pre> graph LR A[伊平屋村 3,800千円] --> B[負担金補助 及び交付金 3,800千円] B --> C1[田名区 1,000千円] B --> C2[前泊区 1,000千円] B --> C3[島尻区 1,000千円] B --> C4[野甫区 800千円] C1 --- D1[集落環境整備に係る重機使用料、 資材費、雑費（部品費、燃料費等）] C2 --- D2[集落環境整備に係る重機使用料、 資材費、雑費（部品費、燃料費等）] C3 --- D3[集落環境整備に係る重機使用料、 資材費、雑費（部品費、燃料費等）] C4 --- D4[集落環境整備に係る重機使用料、 資材費、雑費（部品費、燃料費等）] </pre>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,800	3,800	3,040	760	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,800	3,800	3,040	760	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○予算の規模は、事業内容と合わせ適正である。 ○受益者負担については、各集落において補助金以上の事業設定がなされており、補助金での対応分以外を集落で負担していることで妥当であると考え。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において、予算額と支出額等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑦	自動車航送コスト負担軽減事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア	
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減	
事業内容	島と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送運賃コストを軽減するため、その一部を支援し、定住環境の改善を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	13,333	22,857	38,573	45,607	55,104
		(b) 予算現額	4,235	37,902	49,525	52,933	56,767
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 9,098	15,045	10,952	7,326	1,663
		(d) 繰越額	—	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	4,235	37,902	49,525	52,933	56,767
	B. 執行済額		4,235	37,902	47,568	52,933	56,635
	うち交付金充当額		3,388	30,321	38,054	42,346	45,308
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	96.0%	100.0%	99.8%
予算の状況の説明		前年度と同程度の利用を見込み当初予算を計上したが、想定を上回る利用があったため補助金を1,663千円増額補正した。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	自動車航送運賃の低減 H28年度：年間5,448台（H26年度：4,570台）	目 標	（自動車航送運賃の低減支援）	（自動車航送運賃の低減）	（自動車航送運賃の低減）	（自動車航送運賃の低減）	（自動車航送運賃の低減）
		実 績	427台	3,772台	4,570台	5,097台	5,455台
			目 標				
			実 績				
達成状況説明	設定した活動目標は概ね達成できた。 4月：455台、5月：464台、6月：437台、7月：459台、8月：470台、9月：396台、10月：436台、11月：462台、12月：554台、1月421台、2月：420台、3月：481台						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	車両航送運賃の補助による定住環境の改善	目 標	（ ）	（自動車航送運賃の低減）	（車両航送運賃の補助による定住環境の改善）	（車両航送運賃の補助による定住環境の改善）	（ ）
		実 績		自動車航送運賃の低減	車両航送運賃の補助による定住環境の改善	車両航送運賃の補助による定住環境の改善	
			目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
			実 績				
	進捗状況説明	沖縄本島との唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、自動車航送運賃の助成を実施したことで、医療機関への通院や冠婚葬祭、教育関係行事等沖縄本島における移動手段が確保されたことにより、村民の経済的負担の軽減が図られ、定住環境の改善がなされた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・沖縄本島への唯一の交通手段は船舶に頼らざるを得ず、船舶における自動車航送運賃が高い水準にあることから、本事業により運賃コストの軽減を継続して行う必要がある。 ・土日や祝祭日になると自動車航送利用者が増え、切符販売所や車両搬入路が混雑し定時運航に支障をきたしている。	・平成28年12月より運賃割引システムを導入し、切符購入時の申込書の記入が必要無くなったため、混雑は解消されてきている。また、車両予約の早めの予約を促し、出港30分前までに切符を購入しなければキャンセルとするなど、定時運航に支障をきたさないよう取り組んでいる。
今後の取り組み方針		
・車両航送予約システムの導入や切符購入時の現金以外の支払い方法（クレジットカードや電子マネー等）の導入を検討し、更なる利便性の向上を図る。 ・災害等による停電やシステムの不具合などが生じた場合にも、通常通り切符販売業務を行えるよう対策をとらなければならないため、運賃割引システムの定期的な保守点検を実施する。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
56,635	56,635	45,308	11,327	0

伊平屋村
56,635千円

補助金
56,635千円

伊平屋村船舶運航事業者
56,635千円

住民への自動車航送運賃
低減相当額にかかる補助金

資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については公益性があり妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、増額補正があったものの概ね妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業の負担率を参考にしている(36.4%)ため妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

資金の流れ、費目・使途の点検評価

評価

点検項目

評価に関する説明

○

支出先の選定方法は妥当か。

○支出先については公益性があり妥当である。

○

予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。

○予算規模については、増額補正があったものの概ね妥当である。

○

受益者との負担関係は妥当であるか。

○受益者負担については沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業の負担率を参考にしている(36.4%)ため妥当である。

○

費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。

○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑧	伊平屋村火葬場機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-ア	
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度	平成26~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせる環境づくり Ⅲ-9	
事業内容	本村の火葬場は整備後24年が経過し老朽化が進んでおり、斎場としてのスペースが無く、トイレ・待合室などもバリアフリーとなっていない。そのため、葬儀に係る住民負担の軽減と定住条件の向上に向け、火葬場の機能強化の為の改修、増築及び備品購入を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	25,000	69,003		20,000	
		(b)予算現額	26,162	85,691		30,414	
		(c)増減額(b-a)	1,162	16,688		10,414	
		(d)繰越額	—	0	50,008		
		A. 計(b+d)	26,162	85,691	50,008	30,414	
	B. 執行済額		19,642	35,683	50,008	30,413	
		うち交付金充当額	15,712	28,546	40,007	24,330	
		次年度繰越額	0	50,008	0		
	執行率(%) (B/A)		75.1%	41.6%	100.0%	100.0%	
	予算の状況の説明		当初計画に既存の施設の延命化(改修工事)も含めていたが見直した為、単価(資材、労務費、渡航費等)の上昇等により予算が増額となった。				
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
	・火葬場改修工事監理業務委託 ・火葬場改修工事(防水・待合室・ホール・トイレ・湯沸室) A=219.1㎡	目標	工事監理業務(火葬場改修工事)	()	()	()	()
		実績	工事監理業務火葬場改修工事				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
	達成状況説明	火葬場改修工事監理業務完了及び火葬場改修工事が完了したため目標を達成した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	火葬場改修工事監理業務委託の完了	目標	()	(監理業務の完了)	()	()	()
		実績		管理業務委託完了			
	火葬場改修工事の完了	目標	()	(改修工事完了)	()	()	()
		実績		改修工事完了			
	備品一式の購入完了	目標	()	(備品購入完了)	()	()	()
		実績		備品購入完了			
	進捗状況説明	火葬場改修工事監理業務完了及び火葬場改修工事を完了し、備品一式の購入を完了した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化） 平成26年度は老朽化した火葬炉の改修を行い、平成27年度は火葬場に葬祭スペースがないための葬斎場の建築を実施し、平成28年度は、火葬場の機能強化として施設のバリアフリー化を行った。今後は施設の維持管理及び葬祭等の運営を民間業者へ委託し更なる住民サービスの向上へ向け指導してゆく。	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点） 民間業者の雇用機会の確保・サービスの向上が期待できる施設及び管理体制が整ったことにより更なる火葬・葬儀に係る住民サービスの向上を図り、定住促進へ繋げる。
	施設の維持管理・葬儀の進行等・霊柩車運転を民間委託し、火葬・葬儀に係る住民負担の軽減を行い、更なる住民サービスの向上を図っていき、定住促進に繋げていく。	

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
30,413	30,413	24,330	6,083	0

```

      graph LR
        A[伊平屋村  
30,413千円] --> B[委託費  
1,007千円]
        A --> C[工事費  
29,020千円]
        A --> D[備品購入費  
387千円]
        B --> E[㈱AMS設計  
1,007千円]
        C --> F[㈱共洋土建  
20,651千円]
        C --> G[仲川電設  
8,368千円]
        D --> H[㈱善林堂  
387千円]
        E --- I[伊平屋村火葬場増改築設計業務委託]
        F --- J[伊平屋村火葬場改修工事(建築)]
        G --- K[伊平屋村火葬場改修工事(電気・機械)]
        H --- L[備品購入費]
      
```

資金の 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
○		支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者及び工事請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については当初額より増額したが、沖縄県土木工事等積算基準及び実施単価に基づき積算したことから適正であったと考える。
—		受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要かについて、完成時の検査書類を確認し適正に行った。
○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-⑨	不法投棄未然防止事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部署名	住民課	事業実施（予定）年度	平成28～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9		
事業内容	島内に産業廃棄物等の処理施設を保有していないことから、不法投棄が多くその処理について、観光振興の観点からも早急に取り組む必要性がある。又、今後抑止力を高める事業計画を策定する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000					
		(b) 予算現額	3,000					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額						
		A. 計 (b+d)	3,000					
	B. 執行済額		2,905					
	うち交付金充当額		2,324					
	次年度繰越額							
	執行率（％）(B/A)		96.8%					
予算の状況の説明		予算執行率は96.8%であるが、入札差額に伴う不用額が発生したためであり、当初計画していた事業は全て実施しているので適正である。						
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	残存、新規不法投棄の数量調査を実施する。	目 標	(数量調査の実施)	()	()	()	()	
		実 績	数量調査完了					
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
達成状況説明	残存、新規不法投棄箇所による数量調査を委託実施した。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）	
	不法投棄問題解決へ向けて、検討協議会で方向性の確立を図る。	目 標	()	(方向性の確立)	()	()	()	
		実 績		検討協議会にて方向性確立				
	不法投棄調査の完了	目 標	()	(不法投棄調査の完了)	()	()	()	
		実 績		不法投棄調査の完了				
	進捗状況説明	検討協議会にて今後の方向性を確立し、次年度に向けて不法投棄の調査を完了した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	島内に産業廃棄物等の処理施設を保有していないことから、不法投棄が多く、そのため、観光の観点からも早急に取り組む必要がある。	島内の不法投棄の数量等を確認し、今後の撤去についてや改善策等を検討する必要がある。観光振興に影響を回避する必要があることから、不法投棄の未然防止や不法投棄の処理を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
不法投棄の処理を行い、新たな不法投棄を未然に防ぐため、看板の設置や巡回を行い、協議会等で再度今後について検討する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,905</td><td>2,905</td><td>2,324</td><td>581</td><td>0</td></tr> </table> 伊平屋村 2, 905円 委託費 2, 905千円 (有)ジオプラン 2, 905千円 不法投棄未然防止防止事業					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,905	2,905	2,324	581	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,905	2,905	2,324	581	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者及び工事請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については当初額の実施単価を再積算したため増額したが、当初段階で判断する必要があった。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は事業内容にあったか検査を行い、判断したことから妥当であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-⑩	生ゴミ等循環型資源活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部署名	住民課	事業実施(予定)年度	平成28～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9		
事業内容	本村における生ゴミの処理は、一般可燃物と同時に回収または集落前海岸埋設又は投棄されており、集落の環境衛生悪化及びゴミ焼却施設における処理機能のコスト負担増の要因となっているため、環境保全啓蒙活動、現状把握調査及び処理システムの整備を図る。							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,500					
		(b)予算現額	2,500					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額						
		A. 計(b+d)	2,500					
	B. 執行済額		1,234					
	うち交付金充当額		987					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		49.4%					
予算の状況の説明		本年は本事業の検討委員会発足に伴い、検討委員会委員報酬・旅費と検討委員会委員の他市町村への視察研修旅費等が主な支出である。視察研修場所が宮古島市と座間味村で離島での実践を学べる良い機会であったが、研修日数等の関係で検討委員会の委員全員の参加には至らなかった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	生ゴミ処理及び一般廃棄物処理にかかる協議会発足 (伊平屋村生ゴミ等循環型資源活用事業検討委員会)	目標	(協議会発足)	()	()	()		
		実績	協議会発足					
	先進地視察研修等を行い生ゴミ資源化に対する村民への啓蒙活動の徹底	目標	(啓蒙活動の徹底)	()	()	()		
		実績	啓蒙活動の一部実施					
達成状況説明	①協議会発足については、「伊平屋村生ゴミ等循環型資源活用事業検討委員会」として発足、各集落から男女各1名計2名ずつ代表として委嘱し、家庭で主に生ゴミに関わる女性の意見等聴取した。 ②沖縄県内の先進地視察研修を2回行い(宮古島市、座間味村)、良い点や課題等をふまえ本村での実施にむけて検討した。啓蒙活動の実施については、防災放送等を活用しているが、普及には至っていない。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)	
	・生ゴミ処理及び一般廃棄物処理に係る協議会発足	目標	()	(協議会発足)	()	()	()	
		実績		検討委員会発足完了				
	・先進地調査の完了	目標	()	(先進地調査完了)	()	()	()	
		実績		調査完了				
	・生ゴミ資源化に対する村民意識の向上	目標	()	(意識向上)	()	()	()	
		実績		意識の向上実施				
進捗状況説明	①伊平屋村生ゴミ等循環型資源活用始業検討委員会を発足し、沖縄県内の先進地視察研修を2回行い(宮古島市、座間味村)、他市町村の先進事例を学び、良い点や課題等をふまえ本村での生ゴミ回収の実施にむけて検討した。生ゴミ資源化に対する村民の意識向上については、一部住民へは普及しつつあるが、さらに啓蒙活動を行う必要がある。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①「伊平屋村生ゴミ等循環型資源活用事業検討委員会」は、女性委員の比率が高いため、家庭で主に生ゴミに関わる女性の意見が反映され生ゴミの回収方法の具体例等が検討された。 ②離島のため、小規模村であっても生ゴミ処理及び資源活用事業を完結させなければならない事情がある。完結させるためには住民の意識向上が重要であり、啓蒙活動の徹底は必須である。	①検討会は3回の開催を予定していたが、2回開催にとどまった。村内のさまざまな行事等の関係上厳しいスケジュールではあるが、次年度は更に掘り下げて検討し、啓蒙活動等の基礎にしていきたい。 ②離島における生ゴミ処理の課題は大きく、島で完結させる取り組みとそのシステムづくり及び生ゴミの循環型資源活用を学ぶことができた先進地視察研修は、住民代表である検討委員にとっても大変有意義な研修となり、他市町村の事例を直に見聞できたことは、次年度事業の生ゴミ回収検証や資源活用を模索するうえでの基礎になる。
今後の取り組み方針		
①H29年度は、1年目の検討内容を元に、生ゴミの回収方法の実証等を行い、住民とのワークショップ等で意見聴取・意見交換しながら伊平屋村の生ゴミ回収の具体的方法を決定する基礎とし、生ゴミの資源活用化に向けたシステムづくりを行う。また、村民の意識改革を行うため、啓蒙活動をさらに強化し村全体で取組の強化を図る。 ②今後の具体的取り組みとしては、生ゴミの分別・回収方法の検証、処理方法の検証を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,307</td><td>1,234</td><td>987</td><td>247</td><td>73</td></tr> </table> 伊平屋村 1,234千円 報償費 141千円 検討委員 141千円 検討委員報酬 18名/2回 旅費 1,062千円 検討委員旅費 1,062千円 検討委員視察旅費 27名/2回 需用費 30千円 消耗品 30千円 ファイル等消耗品					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,307	1,234	987	247	73
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,307	1,234	987	247	73										
資金 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、検討委員等であるため妥当である。 ○予算規模は計画のうえで適正規模と判断していたが、離島から離島への視察研修は日程等がかかり参加者の一部は不参加となり、事業の性質上報償費及び旅費等に関しては、参加者への支給が原則であるため大きな減額となった。 ○費目・使途については、主に検討委員報償費、先進地視察旅費を予定していたため、事業目的に即し必要なものに限定されていた。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-⑪	離島食品・日用品輸送費等支援実証事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア		
担当部課名	船舶課	事業実施（予定）年度	平成28～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減		
事業内容	離島における割高な生活コストの低減を図るため、沖縄本島から伊平屋島、野甫島へ郵送される食品や衣類・履物、日用品、医薬品、保険医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,080					
		(b) 予算現額	1,903					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,177					
		(d) 繰越額						
		A. 計 (b+d)	1,903					
	B. 執行済額		1,392					
	うち交付金充当額		1,113					
	次年度繰越額							
	執行率（％）(B/A)		73.1%					
予算の状況の説明		当初、伊平屋村小売店事業者11店舗を登録事業者と想定していたが、事業主が高齢なことから登録店舗として見合わせたことから事業費が過大となってしまった。また、輸送の形態が一つでなく確定作業に月日を要したことから不用額の増につながった。						
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	食品、衣類、履物、日用品、医薬品、保険医療用具、器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援	目 標	（ 支援の実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	支援実施					
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績						
達成状況説明	平成28年7月より事業実施し、登録事業店舗での運賃低減が図られたのが10月以降であったことから住民が商品の値引きについて認識できるようになったのが年度末頃である。従って指標とし数値の現われてくるのは、平成29年度からである。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）			基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
	沖縄本島と離島の生活必需品等の価格差（沖縄本島を100とした場合の指数）を縮小	目 標	（ ）	（ 128.9 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		130.2				
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績						
	進捗状況説明	平成28年3月末時点の登録店舗数が5店舗となり、本村の主要な店舗が登録店舗として確定している。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成28年度は、事業実施の遅れ及び登録事業者の確定に時間を要し、想定していた効果を得ることができなかった。	各登録店舗での安売り情報のPR等の啓発を促すことと、周年を通して安売り商品の固定化を図る。
今後の取り組み方針		
平成29年度は、年度当初より登録店舗6店舗でスタートでき、併せて消費者への安売り商品の認知度が高まってきたことから成果目標値が改善される予定である。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,392</td><td>1,392</td><td>1,113</td><td>279</td><td>0</td></tr> </table> 伊平屋村 1,392千円 負担金補助及び 交付金 1,392千円 ㈱北部港運 1,392千円 日用品輸送費等補助					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,392	1,392	1,113	279	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,392	1,392	1,113	279	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○資金の流れや支出等においては適正であった。 ○予算規模は適正規模であったが、事業の性質上報償費及び旅費等に関しては参加者への支給が原則であるため予測できない減額があった。 ○費目・使途は事業目的に即し、必要なものに限定されていた。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑫	障がい者自立支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-イ	
担当部課名	住民課	事業実施（予定）年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	障害のある人が活動できる環境づくり Ⅲ-9	
事業内容	本村の障害者活動団体の支援を月8回程度行いながら、就労支援に向けた信頼関係を深め、絆を構築しながら年間活動を行っていく。又、就労支援施設整備に向けた障がい者拠点施設実施設計を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況	(a) 当初予算額	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		(b) 予算現額	6,320	664			
		(c) 増減額 (b-a)	5,548	11,463			
		(d) 繰越額	▲ 772	10,799			
		A. 計 (b+d)					
	B. 執行済額		5,548	11,463			
	うち交付金充当額		4,439	9,170			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%			
	予算の状況の説明		事業変更に伴い実施設計を追加したことから、10,799千円の増額となった。				
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	障がい者活動団体支援員の配置1名	目 標	(1名配置)	()	()	()	
		実 績	1名配置				
	障がい者自立支援施設実施設計業務委託	目 標	(委託完了)	()	()	()	
		実 績	委託完了				
達成状況説明	障がい者活動団体に支援員を1名配置し、月8回の支援活動を通して、就労支援施設開設に向けて信頼関係を深める事ができた。また、個々の就労能力の把握もできた。 実施設計業務委託については、障害福祉関係機関との協議も交えながら障害者のニーズに合った実施設計ができた						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
	障がい者活動団体支員の配置1名	目 標	()	(1名配置)	()	()	()
		実 績		1名配置			
	障がい者自立支援施設実施設計業務委託の完了	目 標	()	(委託完了)	()	()	()
		実 績		委託完了			
	進捗状況説明	障がい者活動団体に支援員を1名配置し、月8回の支援活動を通して、就労支援施設開設に向けて信頼関係を深める事ができた。また、個々の就労能力の把握もできた。 実施設計業務委託については、障害福祉関係機関との協議も交えながら障害者のニーズに合った実施設計ができた					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	障がい者支援団体に月8回（週2回）支援員を配置し、就労支援に向けて障がい者一人一人と信頼関係を築き年間活動を行った。また支援員を中心に村内のイベント行事活動にも積極的に取組、社会参加の促進も行えた。障がい者の就労支援事業所の設立が必要だったため、建築に向けての実施設計を行った。	障がい者団体支援活動を通して、障害者個々の就労能力の把握ができた。今回、設計委託業務を十分時間をかけて行うことにより、基本調査に基づき関係機関と協議し、利用者のニーズに合った実施設計に繋がられた。施設整備後の利活用を見据え、障害者一人一人にあった就労画を立て、広域的な連携強化と各関係機関との情報を共有化し、推進プロジェクトチームを編成する。
今後の取り組み方針		
次年度は、実施設計に基づく施設建築工事を行う。 障がい者団体の支援の拡充、施設整備後の利活用を見据えて推進プロジェクトチームの設立し、障がい者福祉の向上へ努めていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11,463</td><td>11,463</td><td>9,170</td><td>2,293</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,463	11,463	9,170	2,293	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,463	11,463	9,170	2,293	0										
<pre> graph LR A[伊平屋村 11,463千円] --> B[委託料 11,463千円] B --> C[上城技術情(株) 10,800千円] B --> D[伊平屋村社会福祉協議会 663千円] C --- E[伊平屋村障害者拠点施設 実施設計] D --- F[サービス管理者の委託(人材派遣)] </pre>														
資金の流 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○障がい者団体支援員の配置の委託業務については、一社見積もりを徴して契約したが、前年度からの継続事業であり、業務内容の熟知を鑑み選定していることから適正と考える。実施設計業務委託業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	伊平屋島災害時避難施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部署名	総務課	事業実施（予定）年度	平成26～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 Ⅲ-10-(2)	
事業内容	地震や津波、台風などの自然災害に強いむらづくりを推進するため、災害時に住民・観光客等が避難する避難指定場所のライフライン等の機能強化により、避難者が安全に安心して避難できる施設の整備を図る。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	26年度（繰越）	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	27,944		4,875	18,000	
		(b) 予算現額	27,944		4,875	24,434	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	6,434	
		(d) 繰越額	—	25,300			
		A. 計 (b+d)	27,944	25,300	4,875	24,434	
	B. 執行済額		2,656	25,290	4,590	24,433	
	うち交付金充当額		2,124	20,232	3,672	19,546	
	次年度繰越額		25,300				
	執行率（％）(B/A)		9.5%	100.0%	94.2%	100.0%	
予算の状況の説明		当初予定していた、発電機の容量では施設の一部しか補えなく、避難時に支障をきたす為、容量を大きくしたことから6,435千円を増額した。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度
	村内各避難施設の非常用発電設備工事実施（4箇所）	目 標	（ 4箇所実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績	4箇所実施完了				
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
達成状況説明	当初の目標である4箇所において、非常用電源設備工事を実施し完了した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
	村内各避難施設の非常用発電設備工事実施完了（4箇所）	目 標	（ ）	（ 4箇所実施完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		4箇所実施完了			
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
	進捗状況説明	目標である避難施設4か所において、非常用電源設備工事を実施し完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	台風時などの災害避難場所において、停電等に対応する非常用発電機の必要があり、避難者が安心して過ごせるための対応策を取らなければならない。	非常用発電機の整備を行い、台風時には避難できるよう対応したが、台風時に窓を閉鎖する必要があったために体調不良により救急搬送者がでたことから、今後は避難施設の空調整備を図り、より安全で快適に過ごせるよう施設の改修が必要である。
今後の取り組み方針		
空調設備を整備し、より安全で快適に過ごすことのできる避難施設の改修を行う必要がある。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>24,433</td><td>24,433</td><td>19,546</td><td>4,887</td><td>0</td></tr> </table> 伊平屋村 24,433千円 委託料 2,258千円 株式会社 国吉設計 2,258千円 設計・管理業務委託 工事費 22,175千円 株式会社 山川電気 22,175千円 発電設備工事					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	24,433	24,433	19,546	4,887	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
24,433	24,433	19,546	4,887	0										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者及び工事請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については当初額より発電機容量増額のため、増額が発生したため、改善が必要であった。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は事業目的を達成するために必要かを検査を実施しており、真に事業に必要と判断したため妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	消防力強化機材整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	災害時及び水難事故発生時における、遭難者不明者の捜索活動や救出活動に速やかに対応出来るよう救助艇の導入並びに人材育成を行うことにより消防団の機能強化を促進する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 ■負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,300				
		(b) 予算現額	3,242				
		(c) 増減額 (b-a)	942				
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	3,242				
	B. 執行済額		3,049				
	うち交付金充当額		2,439				
	次年度繰越額						
	執行率（％）(B/A)		94.0%				
予算の状況の説明		救助艇のみ購入を予定していたが、水難時の際には、ライフスレッドが必要なこと、救助艇を運用するにあたり免許取得が必要であることから、12月補正にて943千円増額を行った。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度
	水難事故等救助艇（運搬台車込）1艇購入	目 標	（ 1艇 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績	1艇				
	水難者救助用ライフスレッド購入 1台	目 標	（ 1台 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績	1台				
	救助艇運用資格者育成講習派遣 5名	目 標	（ 5名 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績	10名				
	達成状況説明	救助艇（台車込）、ライフスレッドの購入、また救助艇運用資格者育成に10名の免許取得者の育成を行った。					
	成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度
水難事故等救助艇（運搬台車込）1艇購入完了		目 標	（ ）	（ 1艇 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		1艇			
水難者救助用ライフスレッド購入完了 1台		目 標	（ ）	（ 1台 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		1台			
救助艇運用資格取得者 5名		目 標	（ ）	（ 5名 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		10名			
進捗状況説明		目標どおり救助艇（台車込）、ライフスレッドの購入を実施。また救助艇運用資格者育成にて、10名の免許取得者の育成を行った。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村は四方を海で囲まれており、水難時の迅速な対応を可能とするために救助艇の整備を行う必要がある。しかし、救助艇を操縦するためには免許が必要となり現団員においては免許保有者は数名しかおらず水難事故に対応が困難となっている。	救助艇を導入することにより水難事故等への対応ができるようになった反面、免許保有者が1年未満となっているため、日々の訓練等で操縦操作を熟知しておく必要がある。また、全団員の65%しか免許保有しておらず、今後免許取得し全団員が対応可能とする必要がある。
今後の取り組み方針		
免許不所持者についても引き続き取得できるよう対応し、免許取得者についてもイベント時の監視等や日頃の訓練等で経験値を増やし、緊急時に迅速対応できるよう行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,048</td><td>3,048</td><td>2,439</td><td>609</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 伊平屋村 3, 048千円 負担金 478千円 (株)日本船舶職員養成協会西日本 478千円 資格取得講習会 備品購入費 2, 570千円 株式会社 マリンランド 2, 570千円 水上バイク、トレーラー、ライフスレッド					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,048	3,048	2,439	609	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,048	3,048	2,439	609	0										
資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については資格取得講習を目的とし負担しているため妥当。また、備品購入費については、三社見積により選定したため、妥当である。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については、見積実施を行い、積算額との開きが出たため、不用額が発生。改善する必要がある。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												